

時事紀

二十五

戰畧 大坂上

續集

27X
21
49

武事紀

二十五

續集

戰畧

大坂上

庚申年

二月

廿五日

庚申

庚申年
二月
廿五日

庚申年二月廿五日

庚申年二月廿五日



武家事紀卷第二十五目錄

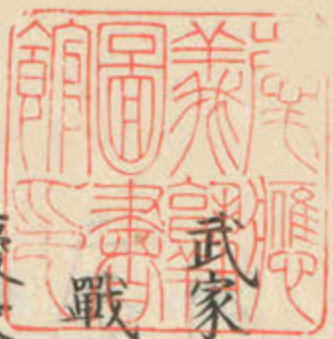
續集



大坂上

戰畧

Faint vertical text in the left margin, likely bleed-through from the reverse side of the page.



武家事紀卷第二十五

續集

戦畧 大坂上

慶長十九^甲年正月二日豊臣秀頼ヨリ薄田隼人正ヲ使節

トシテ駿府ニイタラシメ年始ノ賀儀ヲ行ハシム

五日江戸城ニライテ將軍家公ヲ饗應シ玉フ猿樂アリ是

去冬十二月武州へ出御アツテ御狩アリステニ駿府へカへ

ラセ玉ハントアリシ比馬場八左衛門ト云モノ来テ大久保相

模守小田原ニライテ謀叛ヲナシ公ヲ小田原城へ入マイラ

セハカライ奉ルヘキ企ノ由ヲ訶フ公乃本多佐渡守正信ヲ

召メ事ヲ問シム正信カレト問答数刻ニ及フ其後又江戸



大坂上
戦畧
武家事紀卷第二十五
續集



へ入御也ユヘニ年始ニハ江戸ニマシマス也

七日公葛西千葉東金ニ御狩七日ヨリ十七日マテ御放鷹

十七日大久保相模守忠隣入浴セシメ吉利支丹宗門ヲ改吉

利支丹寺凡ヲ破却

廿日大久保相模守逆心露頭ノ上ツノ罪ヲタサレ小田原

城ヲ没収

廿一日安藤對馬守本多出雲守淺野采女正等以下小

田原ニ至テ城ヲウケトル

今日公駿府へカハラセ玉フ廿四日小田原へ著御秀忠卿

小田原へ出御アツテ御對面

廿九日公駿府へ入ラセ玉フ

二月二日大久保相模守忠隣元治部ヲ江州ニ謫セラレ井

伊兵部少輔直勝ニアツケラル太輔

三日淺野但馬守長晟来テ兄紀伊守長幸カ遺迹ヲ拜

領ノ事ヲ謝

五日申刻大坂城殿守ニ黒氣龍ノコトク立登テ天ヲ覆

殿守ノ焼失スルニヤトテ皆ハタセ馬ニテ馳付ケレハ別ノ

子細ナシ則人ヲアケシメテコレヲ伺フニ飛蛾朽タル木ヨ

リ出テ上ニマフ一甚多シ外ヨリコレヲミルトキハ烟雲ノ

コトクナル也是又城中ノ妖怪ナリトテ朝鮮人李文長ヲ

大坂ノ城ニマ子イテト筮セシム願遇益也其言ニ
人面九口ノ事アリ天下ノ災口舌ヨリヲコルヘシト云戒
ナリト云リ

廿五日米津清右衛門尉去歲阿波國ニ
流罪セラレシヲ今日斬罪セシムヘキヲ命セラル

三月七日高山右近吉利支丹宗門ヲ堅守テ御下知ニ不
從コレヲ罪科ニ處セラレンモ信長以來軍忠ノ輩ナレハ
歎惜シ玉フコノ外内藤飛彈守等モ同シク耶蘇宗門ヲ
堅ク守ルコノユヘニ彼等ヲ大船ニノセラ南蠻ヘヲクリ
遣 今日駿府ニライテ五山ノ僧尼ニ命セラレ為政
以德ノ一句ヲ題シ文章ヲカシメ頌ヲツクラシメ玉フ

披講ノ後公仰ニ文章ノ是非ハ御得心アラサレ凡イツレ
モ為政以德ノ本意ヲハ不得トノ仰ト也

九日將軍家右大臣ニ任シ玉フ 廿九日管絃ヲ御
聽聞四辻宰相秀繼^ツ箏ノコトヲ彈ス青海波陵王ノ樂
ヲ奏ス

四月三日朝日ノ色赤メ無光如銅 五日駿河ノ沖ニテ

異魚ヲ得其形龜ノコトク最大也頭ハ犬ノコトク背黒メ
如龜尾三股ニメ大ナル鱗アリ二十餘人コレヲモツ

六日霰降ト冬ノコトシ 廿一日將軍家任大臣ノ勅
使江戸ヨリ駿府ニ至ル公則コレヲ饗應マシク猿樂ア

諸大名ニ命セラレ江戸城石垣ヲ築カシム又上総介忠輝ノ居城越後高田ノ城ヲ築カシメ玉フ出羽奥州ノ大名勤之初上杉輝虎ヨリ景勝ニ至マテ春日山ニ在城堀秀治カ時ニ至テ福嶋ヘ城ヲヒク其後度々洪水ニ付テ今度高田ヘ城ヲヒク也

五月五日將軍家ヨリ酒井雅樂助忠世使節トシテ駿府ニ至ル將軍家任大臣ノ慶賀也八日酒井忠世公ヘ御目見將軍家ヨリ銀子三百枚献上公長光ノ御腰物ヲ忠世ニ賜

廿日前田權中納言管利勝

初名利長

卒ス五十三歳利長慶長

六年江戸ヘ參勤將軍家一里ホト迎トシテ出御本多榊原各利長旅館ヘツメ將軍家毎日御見舞三日目ニ登城則御暇被下也コレニ由テ利長大ニカシコマリ其後ホト經テ參勤ノ時下著以後上使老中見舞ハカリナリ登城以後三日目ニ將軍家出御利長殊外憤リ御暇以後江戸ヨリ坂本マテ一日ニユキ下諏訪ヘカ、リ飛彈ノ高原ヲコヘ越中ヘ歸國路次中機嫌悪クソレヨリツイニ越中ニ蟄居病氣ト称シ江戸ヘモ不來筑前守利常十三歳ノ時利長隱居越中外山二十二万石ヲ隱居領トス隱居五年目ニ

外山火事ニ付魚津へ退去其内ニ高岡ヲ取立居城トス而
ノ五年目ニ死去也臨終テ前田對馬守奥村伊豫守其外
家ノ老臣ニ遺書ヲノコス今年春秀頼ヨリ利長ヲタノ
ミ来ルトイヘ斥利長既ニ隱居且病者ト称シ是ヲ不肯或云
名刀黄金大鷹等是ヲウケ
テ共一倍ヲ返礼スト云々

六月六日妙法院梶井宮青連院未朝與山徒天台ノ有論議

七日猿樂アリ三門跡見物 廿一日山口駿河守直友

吉利支丹宗門改ノタメ伏見ヨリ肥前長崎ニ至ル山口

駿河守ハ伏見町奉行也

七月廿一日飛鳥井中納言雅庸ヲ召テ源氏物語ヲ講セシム

廿九日秀頼大佛供養ヲ止ム大佛殿去ル慶長七年炎焼
ノ後大閤秀吉ノ志ヲトゲラルヘシトテ近年大營事ヲワ
レリ當年ハ秀吉薨逝ノ後十七年ノ回忌ニアタレリハ
月作善アルヘシソノ前ニ大佛供養ヲトケラレシトイ
ソカル然ニ大佛鐘ノ銘ニ公ノ諱字ヲカシ公ヲ調伏
ノ下心アリト云フ七月廿一日高聞ニ達メ公ノ御機嫌不
快鐘ノ銘ハ清韓長老所著也是ニ由テ供養延引可然ノ
旨板倉伊賀守勝重方ヨリ大坂へ告然レハ其段陳謝ノ
タメ大坂ヨリ片桐東市正且元今日駿府へ發足
八月六日金地院ニ命メ大藏大覽ヲ版ニラコサシメ玉フ

十三日南蛮人未朝ノ絲帛等ノ土産ヲ奉ル

九月朔日阿蘭陀人未朝シ絲木綿及龍腦丁子ヲ奉ル

九日片桐東市正事八月上旬駿府ニ下向東市正屋敷

ハ阿部川河原邊ニテ九子ト間道シトイヘ氏先九子ニ

滞留シ御機嫌ヲ伺フ秀頼母儀ヨリ大藏卿大野修理母永

正渡辺内藏助母二人ヲ片桐ガアトヨリ駿河ヘ下向セシムソノ

比修理亮弟壹岐守駿河ニ勤仕安西ニ屋敷アルユヘ直

ニ彼屋敷ヘ入片桐東市正イマタ登城セサレハ兩人モイ

カト思フ内ニ早々出仕可致旨アツテ兩人先メ登城

數刻御閑談也ソノ後東市正登城鐘銘ノ次第一々陳

謝公仰ニ大佛供養ノサマタケ出来秀頼遺恨ニ不被存

様ニ可仕但近年大閤家ノ諸大名ヘ内通アツテ閑東

退治ノ沙汰疑テ宜ク異見可仕ノ旨被仰聞ソノ後本

多上野介正純ヲ以テ仰聞ラルハ秀頼此度謀叛ノ沙

汰毎疑シカレハ一ニハ秀頼江戸ヘ出仕イタサルカニハ

母義人質トノ江戸ヘ下向三ニハ大坂所替已上三箇条ノ

内ヲ東市正諷諫ヲ以テ相調ヘキコトク可仕ノ旨ヲ命セ

ラル上野介ハ市正縁者タレハ本多上野介正純弟大學後任大隅守大隅守妻東

市正弟主膳女ヲ東市正女トシテ妻之又東市正女本多佐渡守正信養之為女在江戸詳ニコレヲ

談合ス東市正領掌甚カクシトイヘ氏隨分秀頼ヘ諷諫

セシムヘキ旨云ヘリ

今日里見安房守忠義ヲ因州へ放安房國ヲ除ル是ハ木
久保相模守縁者タルユヘ也 大久保加賀守也 今度大久保忠隣上
洛ニ里見力足輕以下多ク召連タルノ由公義御不審也
十一日今日片桐東市正御イトマヲ賜テ大坂ヘヲモムク
大藏卿正永同ク御イトマヲ被下

十七日今日片桐東市正伏見ニ著二人ノ侍女モ伏見ニ
付テ相談セシメ右三箇条ノ次第侍女ハ不知ノ間片桐侍
女ニコノヲ委ク告ケルハ右ノ三箇条甚以大事ノ義也
東市正大坂へ至テ数日ヲ經ハ東市正モ右ノ談合ニ加リ

タルカト疑モ可有之間各先へ被參右ノ談合ヲ具ニイ
タレヲカルヘシソノ後某マイリ一日逗留セシメ其翌日駿
府へ可下ト云合セ東市正ハ其比ヨリ氣色不宜ユヘ為養
生直ニ入浴メニ女ハ大坂ニカヘル

廿一日片桐東市正大坂ニ至リ右ノ旨趣ヲ秀頼へ告テ諷
諫ヲ加ユ 廿三日片桐東市正今日駿府ニ下向ノ用意
ヲイタシ秀頼公ノ命ヲキカシタメニ登城セントスルノ処
織田常真ヨリ片桐方へ佐々雅樂助ヲ以テ云ヲクテレケ
ルハ今日登城ニライテハ則市正ヲ成敗ノ旨ニ相究ル間
可得其意トノ一也東市正家人北村宗右衛門此使ヲ請

取東市正ニ告是ハ初二女伏見ヨリ先立テ大坂ヘ下向
シ此度東市正駿河ニテノ次第悉皆関東ヘ内通ウタカ
イテシコトニ右ノ三箇条中々家康公ノ心底ヨリ出タル
ニ不可有之二女ヘ御對面秀頼公并母公ヘ御念比ノ儀
ニテ左様ノ旨趣御言ノ末ニモアラハレサル處東市正伏
見ニライテ兩人ヘ申キカスル也然ハ東市正カ心底ヨリ
此謀ヲ出メ関東ヘノ忠義ヲ存スルヘシト内奏ノ秘
計ニヨツテ秀頼并母儀氏ニ東市正ヲウトンス殊更此度
ソノ身早速大坂ニ来テ諷諫ヲモノヘズ其身ハヨキモノ
ニテリ秀頼ヲ陷^{フシテ}ヘ入ル、仕形ナリト各讒ヲカマヘケレ

ハ秀頼并母儀氏ニ此義ニ同スシカレハ関東ヘ手切ノ始ニ
片桐ヲ於城中殺害セシムヘキト評定ス此義秀頼ヨリ
織田常真ヘ詳ニ相談セラレケレハ常真驚テ必東市正
成敗無用ナリト云々タメラレケルカ密ニ此事ヲ片桐ニ
通セラレケル也コレニ由テ今日片桐病ト称メ出仕延引ス
秀頼ノ近臣今木源右衛門折節東市正方ヘ来リ右ノ趣
ヲキ、急キ登城ス秀頼千帖敷ノ上段ニ著座渡辺内
藏助木村長門守各出仕メ東市正カ登城ヲ待躰也今
木密ニ秀頼ヘ右ノ趣ヲ告秀頼大驚テ則自誓ノ書ヲ
認土肥庄五郎ヲ以テ少モ異儀毎之旨ヲ片桐カ方ヘ

云ツカワサル片桐コレヲキ、大ニカレコマリ別心ヲ不存ノ
旨詳ニ言上スツノ上ニ速水甲斐守ト今木源右衛門ト
兩人ヲ以テ秀頼并母儀ノ御方ヨリ東市正方へ使アリテ
君臣ノ間無別儀ニキツマレリ其夜片相方ヨリ梅戸ハ右
衛門多羅尾半左衛門兩人ヲ芭蕉ノ間マテ使ニ遣レ速
水今木兩人方へ告ケルハ片桐心底別儀ヲ不存ノ旨上ニ
モキコレメサレ別條無之ハ則織田有樂屋敷へコメラル、
人数ヲノケラルヘシ此方屋敷へ參候モノ氏モコトクク
ライ出スヘシトノ一也今日片相カ家人氏皆甲冑ヲハコヒ
ハタセ馬ニテカケ付也織田有樂屋
敷ヘモ
又如此シカレハ榎嶋玄番竹田永翁兩人當番ユへ織田有

樂處ヘユイテ人衆ヲノケシムヘシトノ一也今日東市正ニ
ヲソレ一人モ登城ノ輩無之榎嶋玄番溝江新助竹田永
翁トハカリ當番ニテ有之也其夜七組ヲマ子キ城中ニ
ライテ相談也大野修理亮渡辺内藏助木村長門守ハ
密談露頭事大義ニ及ヲ難義セシメ面々ノ屋敷ニ蟄居
メ不出合也織田常真ハ今日京都へ出奔ス常真旧臣
津田與菴
在浴板倉ニ談シ迎
船ヲ大坂ニ遣ス廿六日此度ノ密謀大野修理亮
治長相企ルノ故ニ諸牢人ヲカリアツメ大坂本城へ楯籠
東市正ヲ可打果用意ニ付東市正郭ノ向ノ屏櫓ニハ
大筒石火矢ヲシカケ打立ツノキライヲ以テ東市正処

ヘラシ入焼打ニ可仕ノ由談合相キワマル此事東市正方
ヘキコヘケレハ東市正屋敷ニモ家人氏コトクク取コミ皆
兵具ヲ對^帶シ城ヨリ寄ルヲ待東市正主膳正アツマリ防
戰ノ用意也ソノ内ニハヤ城ヨリ兵ヲ出ス様躰ナリト木
橋長^{後判發号立慶}左衛門申来ルユヘニ片桐其用意ノ内ニソノ日モク
レ別条無之大野修理亮方ニモ諸牢人アツマリ東市正
只今トリカクルト云沙汰ニ付評議マキクニメ是又防戰ノ
支度也凡秀頼メシラカル、牢人ハ明石掃部後藤又兵衛
淺井周防守武光伊豆守山川帶刀北川次郎兵衛コノ
外六七人有之也

廿七日昨日既ニ事ヤフレニ及ヒケルヲ七組 伊東丹後守
速水甲斐守

堀田圖書頭野々村伊豫守真野豊
後守中嶋式部少輔青木民部少輔 談合イタスハ如此ニ

テハ事速ニヤフレ秀頼ノタメ不可然トアツテ則速水
甲斐守取アツカイニテ片桐カ子出雲守ヲ人質トシテ
七組へ出サシム然ハ大野修理亮子モ人質トメ七組方
へ出スヘシトアリ修理云ケルハ片桐ハ逆心ヲ存スルモ
ノ也逆心ヲ存スルモノト秀頼ノタメ第一ト存スル某
ヲ一ニ取扱ハ如何ナリ其上別心表裏ヲ事トスルモノ何
ソ父子ノ親ヲモ存セシヤシカレハ片桐人質ヲ出スト
云凡無子細トハ云カタシシカレ凡秀頼ノタメヲ存セラレ

各取扱ノ上ハ我身父子氏ニ命ヲ可弃存スルコトレハ
片桐ニ對メ人質ト云ニハアラス七組衆秀頼ノタメ存セ
ラレテノ事ナレハ則信濃守ヲ人質ニ出スヘシ急キ出雲
守ヲハ片桐方ヘカヘサルヘシト云速水兩人ノ人質ヲウケ
トリ兩人ノ心底別義ナク人質マテ相渡上ハ和睦可然
トテ兩人ノ人質各双方ヘ送りカヘシ双方無事ニスム也
右ノ上秀頼并母儀ヨリ七組ヲ以テ片桐方ヘ命セラレ
ケルハ秀頼母儀氏ニ片桐別心ナキ段ハキ、届トイヘトモ城
下ニ人衆ヲ入城中騒動ノ段片桐カアヤマリナレハ則片
桐大坂城中ノ屋敷ヲヒラキ一旦高野ヘノカレ可然其上

ハ片桐子出雲守ヲ無別条取立ラレ秀頼ノ息女ヲ出雲
守ニ可被下トノコト也東市正如何様ニモ秀頼ノタメニ宜ヤ
ウニトノコト也乍去大佛作事其外サマクノ筭用事今日
ヨリ三日ノ内ニ仕舞指上十月朔日ニ可罷立ト返答ノ右
ノ仕拂九月廿九日ニ相濟

十月朔日東市正屋敷ヲ立ノクニキワマレリ池田丹後守堀
田圖書頭ハ片桐ヲククリ青木民部少輔野々村伊豫
守真野豊後守三人ハ人数ヲ立片桐相遠アラハ可打
果トノコト也中嶋式部少輔ハ櫻門ヲカタメシム而メ片桐
高野ノ住居仕ル上ハ不及是非コトナリトテソノ日モトユ

イヲハラフ而メ右ヲクリノモノ_凡玉造口太和口ノ前ニ出
テ片桐ヲマツ大野修理亮子信濃守ソレマテ人質心ニ出
ル片桐コレヲ對面レ橋キワニテ各イトマコイ酒盃ト出
テ片桐云ケルハ此事関東ニカクレアルヘカラサレハ追付
関東ヨリ人衆可向間各其時分忠義ヲ可被益数年片桐
カ粉骨水ニテリタリト云テ暇乞ヲワリ立退ク弟主膳貞
隆モ同道ス 主膳ハ秀頼ノ電臣也一年秀頼危殆危急ノ時
殉死ノ約マテヲテセリトイヘ凡今度市正事諛者
ノ口ハニヨツテ如此_一ヲ家人甲冑ヲ帶ス先和州法隆寺へ
ウラミテ一所ニ立退ナリ 寺入トアリケレ凡路次遠ケレハ攝州茨木至ルヘシトテ 弟
主膳預ノ飯守ヨリ茨木ニ至ル秀頼ノ近士荒木勘十郎片
處也

桐日比ノ念比ユヘニコレヲヲクルコレユヘ秀頼紀明ノ上切
腹セシム石川伊豆守同日ニ大坂ヲ引拂也片桐高野山へ
不入直ニ茨木ニ入ノ由ニ付弥大坂籠城ニキワマリ諸方へ
手遣ノ用意并ニ城下ノ兵糧ヲコトクク城中ヘカイ入諸
牢人ヲアツム

今日去月廿三四日大坂ノ様子板倉伊賀守勝重方ヨリ
駿府ニ告来ル是ニ由テ則公江戸へ仰遣サレ近日大坂
御征伐ノ旨ヲ諸國ヘ命セラレ
三日公引兩ノ御幕白旗ヲ尾張ノ宰相義利卿ヘ賜リ
明日尾州へ趣テ大坂へ発向ノ催ヲ可仕ノ旨命セラレ

四日天下ノ諸大名へ大坂征伐ノ旨ヲ命セラル各分國ニ歸急兵ヲ率テ大坂ニ至ルヘシトノ儀也

今日公大野壹岐守ヲ大坂ヘツカワサレ片桐ヲ誅罰ノ子細ヲトハセラル

井伊兵部少輔直勝病氣ニ付在江戸第掃部頭直孝去年ヨリ伏見在番領一萬石 為大番頭ストイヘ凡イソキ彦根ニカヘ

リ直勝カ兵ヲ率シ參陳可仕旨公及秀忠公ヨリ命セラレ南泉堺ノ奉行ノ事慶長五年関原御一戦ノ後公ヨリ柴

山小兵衛ヲツカワサレ政所タラシム然レハ大坂ヨリ南泉堺津ヲ取圍ムヘキカタメニ真木嶋玄番赤座内膳ヲツ

カワレ堺ヲ仕置セシメ今井宗薫関東思 顧町人ヲトリコニシ芝

山ヲ逐放ス芝山龍田ニ立ノク此事淡木ニキコヘ片桐方ヨリ加勢トメ多羅尾半左衛門富田太郎助兩人申付テ

屈崎ヨリ船ニテ堺ヘコヘ柴山ヲ可見届ノ由ヲ告ソノアトヨリ牧野次右衛門ト云組頭一人兵士廿人河路五兵衛ト

云足輕大將ニ足輕百人サレソヘツカワス多羅尾半左衛門ト少齋片桐家人 小身モノ也ハ妻子ヲ堺浦ニラクユヘイツレモニ

先立テ屈崎ニコユ其比屈崎ニハ建部三十郎池田越前守在城ス池田武藏守利隆播州ヨリ加勢トシテ南部越

後守ヲ入置富田多羅尾コニ来テ船ヲカルニ付テ小船

ヲ二艘遣ス兩人是ニノリ夜半ハカリニ堀ニ至ル芝山
ステニ龍田ニコユト聽ヘケレ氏夕シカニ不聞届シテハ
イカト云テ政所屋敷ヘユイテ案内ヲ云政所屋敷ニ
大坂勢居ケレハ大坂勢キ、付ヤカテ彼等ヲ討トラント
議スコレニ由テ多羅尾ハ今井宗薫カ宅ニ入テ堅ク守ル
槇嶋等ヤカテ今井宗薫カ家ヲ取巻火ヲ放ツ多羅尾
少齋氏ニ切テ出相働屏ヲノル敵ヲ鉄炮ニテ三人打
ヲトス四人目淺野小平太ト相タメ小平太早ク八十千多
羅尾カモ、ニアタル多羅尾長刀ニテ防之小平太カ父某
是ヲツキトメ小平太ニ頸ヲトラスル也半左衛門モノ也

人餘戰死 小平太後改 雷田カ兵ハヲソク来海上ニテ烟

ヲミテ不著岸ノ引トル 源五右衛門 或云龍 牧野河路兩人居崎ニ至

テ舟ノ才覺ストイヘ氏初片桐者ステニ船ヲカレ遣ス又
来ルヘキコトニアラスト疑疑ヲ立テ城中ヘ不入ソノ内ニ大

坂ヘキコヘ大野修理亮カ家老来村六兵衛等馳来ル中嶋
ノ一揆北村三右衛門雜人トトカリアツメ今日四日片桐
カ兵ヲウツ片桐カ兵神崎ニライテコレヲ防トイヘ氏一揆
氏蜂起ユヘカタイカタク伊丹ヘ引トル伊丹ノ卿人コレヲ不
入茨木マテ引トル内ニ大勢ツケトメ處々ニライテ討ト
ラル牧野次右衛門父子川路五兵衛ソノ外日比加左衛門

十河十兵衛尉

未村六兵衛子東市丞討日比加左衛門

等戰死牧野力組ノ

士四人ノカレニ三日過テ茨木ヘカヘル

後ニ公池田武藏守方ヘ御詮議屈崎表

ニライテ眼前ニテ東市正者ヲ見コロス一イカトアリケルニ則南部ヲ召メコレヲ問南部云敵神崎中嶋ニ充滿スコレニヨツテ小義ヲ以テ屈崎ヲアケン一不可然ト云コノ云分立テ子細ナキナリ 此間日々茨木ヘ大坂

ヨリ押寄沙汰有之ニ付テ板倉伊賀守方ヨリ松平隱

岐守定勝ヘ茨木ヘ加勢ノ一ヲ告隱岐守ハ伏見御留守

タレハ不肯然ハ子息河内守ヲ可被遣ト云河内守不肯

是ニヨツテ板倉カハカライヲ以テ村上三右衛門京近辺代官也

ヲ申付是ヲ遣ス村上元丹波侍工ヘ近郷ノ郷人ヲカリ

アツメ牢人ヲ催促ノ則茨木ヘ至ル北見五郎左衛門モ足

輕五十ツレ出ル也

北見後茨木ノ在番タリ其比代官少ハカリ致シ足輕五十ノ頭タリ

九日公片桐カ許ヘ御書ヲ賜フ且茨木ノ加勢トシテ有

馬玄番頭豊氏

丹波福智山

松平周防守康重

同州篠山

周部内膳

正長盛

同州龜山

三人ヲ命セラル三人則茨木ニ至ル然ハ大

坂ヨリ茨木表ヘ出張ノ沙汰ヤム也

今日大坂ニライテ七組ノ者ヲアツメ饗應其上ニ軍ノ

評定ヲ決シ籠城ノ義相究リ掘ヲサラヘ方々普請等始

リ近國ノ武士ヲ招集十一日ニ古參ノモノ、一類新參ノ

者氏秀頼ニマシユ真田左衛門幸村同大學父子長曾我

部盛親森豊前守勝永仙石豊前守其外名アル牢人皆

大坂ニ至ル京ヨリ後藤家ノモノヲ呼寄大坂本丸山里
ニライテ千枚吹ノ筍銅コトヲ吹クワサセ竹十カレト云筵メモ
ツケズコクイ一ツヲ以テ定メタル金子是ヲ諸士ニ與フ諸
國ヨリ大坂ニアツマル米悉ク城中へ取入賣人ニ米ノ直ヲ與ユ
凡一石銀百三十目
板倉伊賀守工夫ヲ以テ諸國運送ノ米ヲトメシム関東
御用ノ米大坂ノ藏ニ二萬石餘有之板倉書ヲ大野修理
亮カ元ヘツカハレ今度其地籠城ノ用意ニ入ハトメラカル
ヘシト云ヲクル大野キイテ急舟ヲ以テ伏見ニヲクル

大坂籠城ノ兵士

古參七組

伊東丹後守

速水甲斐守

堀田圖書頭

野々村伊豫守

真野豊後守

中嶋式部少輔

青木民部少輔一重

新參六組

長曾我部宮内少輔

真田左衛門佐

森豊前守

仙石豊前守

後藤又兵衛尉

明石掃部頭

大野修理亮治長同主馬首木村長門守玄成渡部内藏

助此四人ハ四方ノ大將分也織田有樂同左門父子楨嶋

玄番頭木村主水正平塚左助内藤新十郎山口左馬助

山川帶刀北川次郎兵衛南条中務少輔石川肥後守太

野道見竹田永翁新宮左馬助御宿越前守岡部大學上
条又八米田監物伴段右衛門小倉作左衛門岡田丹後
守前田主水正足輕大將木村弥一右衛門佐藤才二郎
正徳院智徳院松田利助小岩井藏人足輕五十馬上十
五騎ツ、相預ル此外十三足輕大將尤多シ其外諸方ノ牢
人不可牧舉

十一日公大坂御征伐ノ夕メ今日駿州田中マテ御進發駿

府御留守居水戸頼房卿于時小名 鶴千代主三浦長門守傳之

十二日公遠州懸川ニ著御大野壹岐守コノ取ヘ大坂ヨリ
歸リ申シケルハ大坂ヘ入ントストイヘ凡不入ニ付不及是非

歸来ルト云云

今日本多義濃守忠政伏見ニ著陳ス十一日 發来名今日松平下總

守龜山ヲ立濃州加納ニ至リ父貞平義濃守信昌ニ對
談メ出勢ス

十三日中泉 十四日濱名 十五日三州吉田

十六日岡崎 今日尾張宰相義利卿尾州名籠屋ヲ出

勢一ノ宮ニ著陳義直卿去ル二日駿府 ヨリ名籠屋ニ歸著也

今日伊達政宗江戸ニ參著十月四日 仙臺ヲ立政宗野州小山ニヲ

イテ秀頼ノ使者和久半左衛門是成後改 是安力来ルニ逢和

久則秀頼ヨリ來ル書簡ヲ出ス政宗披見ニ不及則江

戸駿府へ献上ノ取和久ヲ囚フヘキノ旨嚴命アリ由テ追
手ヲカケ三嶋ニテ是ヲ囚フ仰ニヨツテ三嶋ノ代官井出
半左衛門佐野平兵衛ニ預置ク歸陳ノ後政宗
和久ヲ被下
今日秀忠公ヨリ諸大名并御家人ノ輩へ大坂御進發ノ
軍令ヲ被仰出其書ニ曰

軍法

一 喧嘩口論堅停止之上若於違背之輩者不論理非双方
共ニ可誅罰或為親類縁者因或依傍輩知音之好荷擔
之族於有之者本人ヨリモ為曲事之間急度申付ヘシ自
然於令用捨者雖後日相聞其主人重科タルヘキ事

- 一 先手ヲ差越假雖令高名背軍法上者可行罪科事并先
手ニ不相断シテ物見ヲ不可出事
- 一 子細テクシテ他ノ備ニ相交ノ輩有之者武具馬匹ニ可
取之若其主人於及異儀者共ニ以可為曲事
- 一 人數押之時脇道スヘカラサル由堅可申付事
- 一 諸事奉行人之申旨不可相背事
- 一 為時之使如何様之者差遣トイフ所不可違背事
- 一 持鎧者為軍役之外間長柄ヲ差置不可持之但長柄之
外持スル類ニライテハ主人馬廻ニ可為一本事
- 一 於陳中馬ヲ取放ヘカラサル事

- 一 不可押買狼藉於違背之族者見合 = 可加成就事
- 一 小荷馱押之事兼日相觸軍勢 = 不相交樣 = 堅可申付事
- 一 舟渡之儀他之備 = 不相交可為一手越夫馬以下同前
- 一 之事

右條々若於違犯之輩者可處嚴科者也

慶長十九年十月十六日

十七日公尾州名籠屋 = 著御

十八日雨天工へ名籠屋御逗留

十九日濃州岐阜 = 著御 本多美濃守忠政牧方 = 陳取

廿日江州柏原 = 御著

廿一日永原 = 著御 伊達政宗上杉景勝今日江戸ヲ立

テ大坂 = 趣

今日大坂勢城外ヲ地焼

廿二日膳取 = 著御

廿三日二条御城 = 著御 今日片桐東市正茨木ヨリ

上京ノ御礼申上則高野山へ蟄居ノ儀ヲ願奉ルトイへ

氏公不肯片桐力家人日比半右衛門ヲ被召出時服拜

領是ハ忤ヒツレ加左衛門攝州伊丹 = 於テ打死ノ儀不便 =

被思召ノ故也 今日秀忠公江戸御進彘神奈川 = 著御

秀忠公ハ公ノ御左右次第ニ御出

馬アルヘシ其間江戸御仕置可被入御念ノ旨仰付ラレ御左
右ヲ待シメ玉フトイヘ凡御左右延引ニ付今日御出馬ナリ

江戸御留守居家光公忠長卿越後羽林忠輝卿蒲生下

野守忠卿鳥井左京亮忠政内藤左馬助政長酒井河内

守重忠奥平大膳大夫家昌福嶋正則黒田長政加藤嘉

明蜂須賀蓬菴阿波守家政
判髮号蓬菴谷出羽守衛友平野遠江守

長泰其外御家人凡充多シ大御番頭高木圭永正御留

守居タリ

今度兩御所大坂御進発ニ付御家人ハ不及申天下ノ大

小名各順路ヲ歷テ大坂ニ趣ク

尾張義利卿紀伊頼宣卿今日

十一月三日

大坂役聞越

前十一日發

軍陳大津三

井寺待忠直

忠直在江戸

因仰与一万

石於萩田主

馬元八為武

者奉行梶原

及濃守菅沼

久弥以上三

人為武者奉

行梶原菅沼

者奉行

上總介忠輝卿

越前忠直

松平伊豫守忠昌

松平出羽守直政

松平筑前守利常

伊達陸奥守政宗

上杉景勝

佐竹義宣

松平武藏守利隆

松平左衛門督忠繼

松平宮内少輔忠雄

浅野但馬守長晟

蜂須賀阿波守至鎮

鍋嶋信濃守勝茂

藤堂和泉守高虎

生駒讚岐守正俊

松平土佐守忠義

堀尾山城守忠清

寺澤志摩守廣高

加藤左近大夫定泰

福嶋備後守正之

加藤式部少輔明成

九鬼長門守守隆

伊東修理亮祐久

毛利甲斐守秀元

木下右衛門大夫延俊

脇坂淡路守安元

新庄越前守直好

池田備中守長吉

金森出雲守重頼

小出太和守吉英

小出伊勢守吉親

片桐東市正且元

相馬大膳亮利胤

黒田東市正

杉原伯耆守

土方掃部頭

山崎甲斐守

佐久間備前守安政

佐久間大膳亮勝之

谷出羽守衛友

細川玄蕃頭興昌

日根野織部正

稻葉民部少輔一通

坂崎出羽守

土方丹後守

竹中伊豆守

関長門守一政

京極若狹守

京極丹後守

向井將監

小濱民部少輔

中川内膳正久盛

堀丹後守直寄

松倉豊後守重正

素山伊賀守

素山左衛門佐一直

素山左近

本多因幡守

神保長三郎

秋山右近

丹羽勘助氏信

別取孫次郎

一柳監物

分部左京亮光信

稻葉淡路守

西尾豊後守忠照

遠山久兵衛

高木三人衆

真田河内守信吉

藤堂將監

別所豊後守

山岡主計頭

古田大膳亮

菅沼織部正定芳

遠藤但馬守常利

德永左馬助昌重

織田三十郎

保科肥後守

真田内記信政

仙石兵部少輔忠政

鳥井土佐守正信

植村主膳正

浅野采女正長重

秋田城介實季

丹羽五郎左衛門長重

須賀攝津守

羽柴丹波守

有馬玄番頭豊氏

本多義濃守忠政
出雲守忠朝

諏訪因幡守頼水

稻葉攝津守重種

藤田能登守

水谷伊勢守勝隆

成田左馬助

松下石見守元綱

近藤石見守

和田縫殿頭

井伊掃部頭直孝

酒井左衛門尉家次
宫内少輔忠勝

柗原遠江守康勝

松平下總守清匡

牧野駿河守忠成

水野日向守勝成

石川主殿頭忠總

高力左近大夫

松平將監成重

内藤帶刀

小笠原兵部太輔秀政

信濃守忠修
大學忠真後任右
近大夫

松平周防守康重

冬在天滿
夏守龜山

丹波龜山

岡部内膳正正盛

冬在天滿口
夏在城押國中賊

此外本多佐渡守正信同正純安藤對馬守重成土井大

炊助利勝永井右近大夫直勝等并御近習ノ番頭

不遑毛拳凡寄手三十有餘乃云々

源君御旗本

大番頭

松平出雲守勝隆

父大隅守重勝大番頭ヲ勤ム大隅守上総介
忠輝卿へ付ラル、ノ後隆重大番頭ヲ勤ム

松平石見守

水戸黃門家人松
平壹岐守力筋

西尾丹後守忠永永井右近大夫直勝

此兩人御小姓御書院番ト云テモ十
ク給仕番ノ頭ト号シ奏者番ヲ仕ル也

水野備後守元綱

酒井雅榮
頭弟也

本多上野介正純

松平右衛門大夫正久

板倉内膳正重昌

秋元但馬守泰朝

大坂以前八本多正純村越茂助吉直安藤帶刀直次成瀬

隼人正正成以上四人御老中也茂助卒シ安藤成瀬義直

卿賴宣卿へ付ノ後板倉秋本等三人加判セシムル也

御旗奉行

庄田三大夫

丹波侍後入道シテ
モ三木夫ト云

保坂金右衛門

甲州人

冬御陳ニハ小栗又一ヲ御旗ニサシソヘラレ住吉海道ニ

御旗ヲ立シメ玉フテ公ハソレヘ御出無之直ニ大坂へ出御

也又市聞テイツモノ一也又殿ニタマサレタリト云テ御

旗ヲ捲リト云々

御旗二幡ノ白キ打カケ御馬印丸ノ下ニ金ノ暖簾

冬御陳ニハ金ノ

團子ノ
小馬印

御鎧奉行

大久保彦九衛門

御弓大將

布施孫兵衛

蜂屋七兵衛

此外追可考之

杉浦内藏允中根喜藏兩人三州ノ御足輕五十ツツレ

出ヘキ旨被仰付テ令出陳也歸陳ノ後杉浦力足輕ハ

上ル

御使番五ノ字ノ指物

小栗又市

山本新五左衛門

横田甚右衛門

初鹿傳右衛門

服部権大夫

城和泉守

奥山次右衛門

鈴木久右衛門

嶋弥左衛門

真田隱岐守

間宮権左衛門

清水権之助

本多藤四郎

原田藤左衛門

佐久間河内守

山城宮内少輔

瀧川豊前守

米倉丹後守

川野庄左衛門

加々爪民部豊嶋主膳田上大膳此三人ハ若ケレハ假借ニト
アリテ後ニ被仰付

秀忠公御供

本多佐渡守正信 酒井雅樂頭忠世 安藤對馬守重成

大御番頭六人ノ内松平丹後守重直 松平大隅守カ男
出雲守カ兄 土岐

山城守定義安部備中守正次三人御供高木主水正御

留守渡部山城守井伊掃部頭直孝兩人ハ伏見ニ在番但

掃部頭ハ直ニ彦根へ至リ井伊兵部少輔直勝ニ替リテ

出勢ス夏御陳ニハ阿部備中守正次高木主水正正成牧

野内匝頭信成御供松平丹後守重直土岐山城守定義

江戸御留守居渡邊山城守牧野内匝頭伏見在番也然

処牧野内匝頭一伏見ヨリ御供被仰付也

御書院番御小姓組各四組ノ内三組ツ、御供

御旗奉行嶋田次兵衛利政三枝土佐守昌吉但夏御陳ニハ

嶋田次兵衛ヲ指除カレ屋代越中守秀正三枝土佐守

昌吉ヲ可被仰付旨駿府ヨリ被仰出

御旗白キマ子キ同黒キ葵ノ丸御馬印金ノ扇銀ノタリ

半月ノ小馬印

御鑓奉行

笈勘右衛門米津梅子助保坂新助小林庄助伊東右馬
助多門縫殿助戸田七内諸賀源七勤之安藤與十郎小
見山又七郎兩人御使番ニテ御鑓奉行兩役ヲツトム
故ニ赤母衣也

御足輕大將

森川金右衛門 岡部庄左衛門 服部中

細井金兵衛 近藤石見守 牧野伊豫守

駒木根右進 此特右進
改易 倉橋内匠助 久永源兵衛

本多太郎左衛門 三枝内匠助 屋代越中守 復御陳御
旗奉行

此外追可考之

御持弓 内藤外記

御持筒 青木善四郎 但御使番ニテ
御持筒ヲ預ル

御使番 赤母衣

牟禮江右衛門 鶉殿石見守 今村彦兵衛

久貝忠三郎 後改因
幡守 小沢瀨兵衛 山岡五郎作

中川半左衛門 兼松源兵衛 村瀨左馬助

近藤勘右衛門 服部與十郎 石川又四郎 後八左衛門
終任大隅守

三宅半七郎 内藤右衛門 後改
外記 高木九兵衛 後號
後守

山田十大夫 永井弥右衛門 後號
監物 青山石見守

石川三右衛門後改 土佐守

溝口外記

渡边半四郎後改 圖書

安藤次右衛門

小宮山又七

青山善四郎

川口長三郎

永田庄九衛門

川口長田八冬御 陳=肥後へ被遣

朝比奈源六

安部四郎五郎

後號四郎右衛門朝比奈安部八夏御陳=肥後へ被遣

太田善太夫

中山勘解由

太田中山八夏 御陳=被仰付

嶋田次兵衛

三枝土佐守

嶋田三枝八冬御 陳御旗奉行

廿四日將軍家相州藤沢ニ御著勅使廣橋西三條未謁

佐竹義宣今日江戸ヲ出勢

廿五日小田原

廿六日豆州三嶋

今日藤堂和泉守高虎河内國國府ニ陳取太和勢ノ惣大

將ヲ兼テ御先手ヲ勤ム

廿七日駿州志水是ヨリ行程ヲ急ル御供七八十騎ノ外

皆傳馬ヲ被下

廿八日遠州懸川此取へ藤堂高虎力使節至ル將軍家

御内書ヲ賜路次隨分急ラルノ間大坂御取誥待セラ

レ被下候様ニ可申上旨也

廿九日三州吉田今日御油ノ町ニテ政宗者乘討御走衆

則御駕輿前ニテ斬罪之

藤堂高虎河内ヨリ兵ヲス、メ大仙領住吉ニ至ル紀州

新宮左馬助堀ヨリ大坂ノ城ニ入高虎カ先手ノ兵朝霧ノ内不見付渡部勘兵衛尉先手ニ居テ物見ヲカケレハ紀州浅野カ兵トリト云テ押通ル後ニ新宮トリトシレケルユヘ高虎大ニ怒ル

十一月朔日三州岡崎是ヨリ行程ヲ急レズ

二日尾州名籠屋ニ御著乃城廻リ御見物今日京都ヨリ飛脚到来將軍家行程ヲ急レ諸人困究ノ由台聽ニ達スルノ間行列ヲ調ヘ玉イ静ニ御入洛可然トノ儀也今日松平下總守清匡及美濃ノ軍勢飯森牧方ニ陳トル今日城兵薄田隼人正山口左馬助平野ニ出テ地焼ス速

水甲斐守郡主馬首等議ノ云藤堂高虎一人味方ヲ離レ佳吉ニ陳取テ幸ナレハ兵ヲ出シ討散スヘキ旨相談ストイヘ氏衆議不決メ止ヌ福嶋備後守正之父正則ニ代リ兵ヲ卒シテ叅向此人衆淀川サラレノ下ツキトメノ普請被仰付伊奈筑後守奉行ス

三日濃州大垣

四日江州柏原

今日松平下總守清匡及美濃ノ軍勢飯森ヨリ平野ヘ発向スヘキ旨命セラレ

五日佐和山

今日松平下総守清匡平野ニ出勢大坂勢皆城中へ引退今日五日ヨリ先手仕寄ノ輩皆大筒ヲ仕掛鯨波ヲ発ス

六日永原ニ著御此取ニ御逗留アツテ後陳ノ勢ヲ待ソロヘ玉フ

今日大坂城兵出テ天王寺ヲ焼浅野但馬守長晟今日泉州大鳥ニ陳取長晟事藤堂高虎ニ指添働クヘキ旨命セラル是ニ由テ長晟大仙領ニ至リ高虎ニ對面ス

七日浅野長晟住吉ノ側今在家ニ陳取

六日七日中國勢大坂ニアツタル松平左衛門督忠継神崎

忠継渡神崎
時足輕大將
柳田半助一
番ニ舩ヲ獲
テ足輕ヲソ
セコサレム
此舩ハ林矢
共衛ノノミ、
飛乗柳田ト
同一番ニ渡
之

川ヲコス賊徒神崎ノ渡ニ番舩ヲマフケテ中國勢ヲフセク處左衛門督軍勢コレヲ追拂フ戸川肥後守花房志摩守同助兵衛相從フ松平武藏守利隆中嶋瀨ヲコヘントス國嶋ト云取湍川ノワカレ十艘ノ渡也此時賊徒七組ノ兵織田有樂同左門雲生寺也中嶋ヲ点檢ス武藏守川ヲコサントスルヲ見賊皆川ハ夕ニ備フ武藏守既ニ川ヲワタラントスル取テ城和泉守御目付トメ彼カ陳ニアツテコレヲトム味方小勢コトニ地形案内ハ不存ノ間越ヘカラスト堅ク諫メテ越シメズ武藏守甚憤左衛門督既渡神崎故武藏守憤之ソノ晩左衛門督中嶋ノ下ノ瀨ヲワタル水深ノ舟筏ヲ用戸川花房力戦シ敵數

十人ヲ討取 武藏守弥憤之後悔因之後
日城和泉守蒙御勅氣也

八日相殘御供ノ御家人今日皆永原ニ相集ル

九日矢橋ヨリ膳取テテ御船小姓衆二三人御供

十日將軍家城州伏見城ニ入御

今日本多佐渡守正信尾州名籠屋ニ至ル江戸并関東取々

ノ制法ヲ堅ク申付跡ヨリ馳来ルテリ

十一日將軍家入洛公ニ謁セラレ則伏見ニ還御

十二日十三日伏見御逗留此内東國勢并御旗本ノ先手皆

大坂表ニ奔向セシメ城ヲ取卷水野日向守勝成一ノ御

跡ニ押堀丹後守丹羽勘介徒之

允備前衆へ八城和泉守森義作守手へ村瀬左馬助鶴殿
兵庫御檢使タリ其外追可考之

大坂城寄場

京橋備前嶋淀川方松平周防守加藤左近京橋筋池田
備中守黒田東市正別取豊後守市橋下總守菅沼織部
正伊藤修理亮毛利伊勢守蒲生今福堤信貴野邊佐竹
右京大夫米沢中納言此間築陳城 松平丹波守
牧野駿河守 守之堀
尾山城守真田河内守同内記本多出雲守淺野采女正
秋田城介松下右兵衛本多縫殿頭木下右衛門大夫小
出太和守石川伊豆守宮木丹波守祢津小五郎片桐東

市正水谷伊勢守千石兵部松平甲斐守六卿兵庫頭相
馬大膳新庄越前守酒井左衛門尉羽柴丹波守京極若
狹守真田出丸松平筑前守有兼井伊掃部頭同黑門筋
越前少將忠直天王寺海道ノ右大須賀出羽守天王寺
表寺次志摩守金森出雲守伊藤掃部助本多左京兼山
伊賀守兼山左衛門佐松倉豊後守藤堂和泉守茶臼山
ノ前脇坂淡路守堀丹後守水野日向守堺海道日本橋
ノ方生駒讚岐守伊達政宗三船場筋浅野但馬守蜂須賀
阿波守松平土佐守鍋嶋信濃守竹中伊豆守稻葉彦六
花房志摩守中川内膳正九鬼長門守高麗橋筋松平左

衛門督難波橋天神橋天滿橋松平武藏守加藤式部少
輔岡部内膳正有馬玄番頭松平下總守松平因幡守能
瀬伊豫守傳浦口ノ方本多義濃守福嶋東市正此外兩
御所御旗本ノ御家人老中諸番頭各御本陳ノ前後左
右ニ備フ尾張義直卿紀伊頼宣卿御本陳ノ近處天王
寺筋ニ陳取玉フ
凡大坂城持口ノ次第西今橋高麗橋ニモ夕橋一テ木
野主馬首持口南表ニモ夕橋ヨリ仙石豊前守持口一
テ雲生寺惣大將也其内北間南条中務世間石川肥後
守其次長曾我部盛親其次山川帶刀其次北川二郎兵

衛北川持口真 其次明石掃部八十 其次植嶋玄番京極

備前守東南ノ方也 其次仙石豊前守東ハ仙石豊前守次野々

村伊豫守伊藤丹後守堀田圖書真野豊後守中嶋式部

也東ノ角ヨリ北マテ大野修理亮同道献持口也浮武者

ニ木村長門守渡辺内藏助足輕大將惣頭後藤又兵衛

足輕大將木村弥一右衛門佐藤才次正徳院治徳院根

衆松田理助各足輕 右何方ヘモ加勢右門々屏裏ノ持口

修理亮渡辺内藏助新參北川二郎 南表黒門筋出丸ヲ見立七組相談ノ上真田左衛門幸

村コレヲウケトリ出丸ヲカマユル也人數ハ本國信州上

州ヘ云遣シテ大坂ニテ多クカ、ヘサルニ付當分無人ユヘ

後藤又兵衛明石掃部ヲサレ加ヘラルトイヘ凡真田不肯

黒門筋ノ持口北川二郎兵衛道所ナルユヘ互ニ見届ヘ

キニキワマル

十二日將軍家二条ニ至ラセ玉フ 今日尾張宰相義利

卿伏見ヨリ木津ニ出勢

今日大坂邊大西風是ニヨツテ城兵相議メ曰寄手先勢

大坂逆取ニ至ル今日逆寄スヘシト評議ス衆議不一決

シテ事ヲラス

十五日公京都ヨリ奈良ニ御出軍將軍家伏見ヨリ平

野ニ御出軍御野陳ナリ

十六日公奈良ヨリ法隆寺ニ御陳ヲ移サル將軍家平
片ヨリ平岡へ御野陳

十七日公関屋ヲ經テ住吉ニ御著陳住吉社務取ヲ御
本陳ニ被遊水野日向守勝成太和口ノ惣アトラ押テ住

吉ニ至ル堀丹後守丹羽勘助同住吉ニ至ル將軍家攝
州平野ニ御著陳

世俗ニ云傳上宮太子ノ曰龜瀬越ヲラスモノハ駄馬匹
夫往テ再不歸トコレニ由テ此度モ龜瀬越ヲハ太和勢不

通ナリ

今日向井將監九鬼長門守千賀與八郎相談セシメ新

家村ノ敵ノ要害ヲ押破ル是野田福嶋ノ要害へ取續

バ也向井將監昨十六日傳浦ニ付テ云初メ命ヲ兼テ軍

船ヲ催シ相州三崎ニ至ルノ處父兵庫頭三崎奉行堅フセ

イテ船ヲトム此ユヘニ將監軍船一艘ニノリ從船一艘

ヲワレテヒソカニ乗出スコレヲ見船手ノ諸士皆出ツ此

日暴風疾雨浪甚高メ船ヲ進ル不能類船各三崎ニ

カヘリ天氣快霽ヲ可待ト云將監不肯類船皆三崎ニ

カヘル將監船二艘ス、三行夜ニ入テ風甚強水手悉ツカ

ル三崎ヨリ三日ニ勢州龜嶋ニイタル從船一艘風ニハ

十夕レテ行方ヲ不知將監モ氣勞力屈ス從者皆然故ニ
療養ヲ加フ連日風不止龜嶋ニライテ数日ヲ經テ大坂
ニ至ル今日先將監傳法ニ至ルト云々公甚御感

十八日公及將軍家茶旧山岡山ノ要害御巡見トシテ茶
旧山岡山へ出御此時茶旧山ニテ北見長五郎後號密柙ヲ

臺ニスへ献上ノ謁シ奉ル此比長井右近大夫直勝足ヲ
痛ニ御跡ヨリ杖ニテ茶旧山へ上ル公其杖ヲ取セラレ大
坂ノ方ヲ指示シ玉フ左ノ御手ニ密柙ヲ三ツ取セラレ御口
ニテ皮ヲ取テ被召上残ル所ヲ將軍家へ賜ル將軍家頂
戴御懷中本多佐渡守正信ハ下馬仕ラズ其終乗上ルへ

キ旨石川加右衛門

後號
丈山

御使ニ参リ是ニヨツテ正信参上

立テカラ大坂ヲ見積ル將軍家ハ下座テサル此時御歸ニ
將軍家ノ御馬紅ノ大総ナルヲ公上覽アツテ本多上総野
介ヲ以テ呼カヘシ参ラセ大將ハ如此目ニ立裳束ハ遠
慮可有之敵ノ目アテトタルモノテリト嚴命アリ

今日午刻城中ヨリ足輕ヲ出シ藤堂高虎カ先手ト半時
ハカリセリ合テ引取ル

南泉堺警固ノ夕メ西尾豊後守ヲ遣サル軍勢ノ狼藉ヲ
禁スヘキ旨嚴命アリ

十九日將軍家住吉へ出御申ノ刻還御 廿日大風

廿一日夜ニ入間人任吉ニ至テ伺フ則是ヲ捕ヘ糺シ問ノ處大坂城中ヨリ藤堂高虎カ陳ニイタルトテ道ヲ蹈違タルト云ユヘ則推問ニ及ノ處秀頼ヨリ高虎方ヘ内通ノ間書アリ

重而申入候今度其方以調儀兩御所此表引出令満足此上東勢申合不日後切可被仕候於事成者如約束國可與行其外望次第可被行恩賞者也

十一月廿一日 秀頼

藤堂和泉守殿

彼者ノ云ク藤堂和泉守淺野但馬守秀吉公恩顧輩城

ヲ攻トイヘ氏密々志ヲ城中ニ通シ或ハ献酒肴或ハ送衣服モノ若干ト云公謀タルヲ察シ玉イ高虎ヲ召此書ヲ賜リ少モ隔心ナキ旨ヲ被仰聞則此者ヲ被下高虎秀頼ト云鉄印ヲ彼者ノ面ニラシ手足ノ指ヲキリナタノ紋ノ旗ヲサセ大野圭馬旗ノ紋也此者圭馬カ兵谷川瀬兵衛ト云モノナリ城下千波口ヘステシム此所大野圭馬持口也

廿二日蜂須賀阿波守乘取織多城御年譜云十九日取織多城此所ハ城

兵薄田隼人正小倉作左衛門船場ノ押トシテ在城城ノ持

口廣過ニ付此边ヲ破却セシメ可然ノ由兼テ城兵詮議ア

リトイヘ氏持口ヲ捨儀イカト延引然處兩人ヲ秀頼ノ

薄田隼人於伯耆洲有此事

織多城持口船奉行

樋口淡路寺雅原中村本五衛門一晟

一本云明石丹後寺ト有之

前ニ招テ相談ノ内ニ役所ヲ可代軍使ヲ發メ守兵ヲ

引拂云々又云薄田秀頼ノ前ヲ立宿所ニカヘリ風呂ニ入夜咄ヲイタシ

去十九日公仰ニ穢多城伯樂淵兩所目ノ上ノコブノ如ク

トリトノ仰也蜂須賀至鎮淺野長晟御目見ノ時節ユヘ兩

人乃是ヲ可采取ノ由言上仰ニ云人ノ不損コトク可仕云々

横田甚右衛門在御傍諸大名ノ聞コトク今日或云十至鎮力

少々人ソコ子テモ不苦儀テリト云ヘリ九日關船大將森甚五兵衛弟甚太夫甚太夫弟一番ニ乘入山

田織部樋口内藏助戰功後日賜御感書淺野長晟ハカ

子テ蜂須賀ト相圖ヲ定ヲキケレハ待約ヲ兵ヲ出ス蜂

須賀宵ヨリ兵ヲ出メ仕掛ケルユヘニ淺野兵ハ遲參船場

町中

蜂須賀淺野請取也

廿四日間宮權左衛門尉自長崎歸參高山内藤等ヲ放

蛭國ノ由言上

廿五日切春日井堤水ヲ中津川ニラトシ天滿川ヲ于伊

奈筑後守奉行之

廿六日志貴野今福ノ堤場ニテ戰アリ今年夏大水ニ付堤凡方々切口多

レ其切口凡ヲ弥切落レ柵ヲ三重ツケテコレヲ要害トシ守ラレ

ム南ヲ志貴野小ヲ今福ト云其間川ノ淺瀬芦原多シ大野修理

亮兵守之今福ハ矢野和泉守飯田左馬助信貴初メ近藤石見

守本多三弥屋代越中守三人諸手巡見イタレ可申付旨公コレヲ命セラル近藤本多ハ別ノ御用有之ソノ代

ニ安藤治右衛門伊東左馬允兩人ヲ被命三人ノモノ
廿五日ノ晚ニ信貴野今福ノ堤柵塲守兵甚スタケレハ
安藤伊東兩人手ノ者ハカリニテ乘入柵塲ヲトルヘキト
云屋代越中守イ、ケルハ是ホトノ一不得上意ノハイカ
カ也トテソノ晚上意ヲ得佐竹義宣ニ可乘捕旨命セラ
ル今朝未明ニ屋代等三人佐竹陳処ヘ至リ右ノ通イ
イワタレ三人ハ先へ行越中守子甚三郎
越中守カ子テ云
付跡ヨリ可来ト
定メテ出来ル越中守不入一仕来レルト云テ大ニコレヲ
クテリ
訝ル越中守ハ馬上安藤伊東ハ步行立也安藤云ケル
ハ各步行立也越中守モ可下馬ト云ケレ凡我ハ老人也

ユルシ玉ヘトテ二人ノアトヨリシツカニ乗寄ル堤下ニ十
リテ内ヨリ鉄炮ヲ急ニウキ越中守者則座ニ討死ス
道ヨリテハ鉄炮コシテ不中也今福ノ柵ノ左右ニ木戸
ロアリ一方ヨリ安藤伊東入一方ヨリ甚三郎家来凡
ラシ入テ甚三郎守兵井上五郎右衛門
足輕ヲ討取甚
大將
即北一歳世二十
八歳ト云ハ非也 是ニ因テ城兵足輕凡悉ク崩ル、越中
守アトヨリ来テ早々引取ルヘシト下知メ右ノ三人皆
引取アトヘ佐竹衆ツメテ是ヲ請取柵塲ヲ取り片原町
ヘ乱入城兵矢野和泉飯田左馬助父子三人打死時ニ城
ヨリ木村長門守組川崎和泉上村金右衛門智徳院
足輕

大出テ追拂佐竹兵町口ヲステ、引退城兵三人ヨリ
將加勢ヲ乞テ大井何右衛門高松内匠足輕ヲツレ来テ
打立ル追々城兵カケ出テ柵ヲカタトリ互ニセリ合木
井何右衛門柵ノ木戸ヲヒラキ出テ戦フ此間ニ木村長
門守カケ付ツイテ出堀田圖書後藤又兵衛兩人ハ天満ノ要害普請
場ニアリ右ノセリモ馳付大ニ戦佐竹兵柵場ヲトリカヘサ
合テ見テカケ付ルレ敗北淡江内膳鳥毛母衣打死其外手イタキ戦アリ上杉
景勝加勢可仕ノ由ニ付志貴野ノ堤下ヨレワラカトトリ
安田上総介須田大炊助杉原常陸介鉄孫左衛門嶋津
玄番等備ヲクリ出シ城兵ノ横ヨリ足輕ヲカク此地

足入多左右狭ノ働カテイカタシ柵キワ敵間ワツカ九間十間景勝モノ匠

力戦ス佐竹カ兵梅津半右衛門戸村十太夫戸塚九郎兵衛

秋山兵庫等戦功アリ九頸ヲウル一十五堀尾山城守ハ上杉

景勝カ左ニ陳スレハ是又上杉ニカワルヘキタメ備ヲクリ出ス

トイヘ匠城兵ステニ引取ユヘ洲崎ヨリ足輕ヲカケタル也

丹羽五郎左衛門尉長重上杉カアトニ備丹羽カ兵先ニ出

テ足輕ヲカク本多出雲守佐竹ニカワリ今福ニ向フ本

多出雲守組下浅野未女正真田河内守同内記松下石

見守秋田城介仙石兵部少輔新庄越前守也

城兵今福堤ノ當番矢野和泉守飯田左馬助父子打

死信貴野當番井上五郎右衛門戰死

木村力與力松浦弥左衛門及堀田圖書モノ淺部

清兵衛一番ニ進テ首ヲ得松浦首ヲ持テ城中ニ至ル

門執筆未注之松浦怒責之白井猶不記其内ニ淺部

首ヲ持来テ云最初ニ討之トイヘトモ歩行ユヘ遅

参ト云々此時白井松浦ニ向テ云ケルハ初首ハ必

論アル者也ユヘニ番頭ニテヲ見テ一番ヲシル

ス是右筆ノ古法ト云々因一長門守組高松内匠

番頭ニテ記シ二人ノ名ヲ記大塚勘右衛門小川甚左衛門大野半次草賀五郎右

衛門若松一郎兵衛齋藤加右衛門山中三右衛門八

人鑓ヲ合セ則長門守廿八日ニ借感書ヲ與此外長

門守モノ平井九兵衛瀧浪弥八郎松原五左衛門佐

藤八左衛門中村太左衛門各奥是等廿人餘戰功了

リ長門守兵士柳名右衛門小船ヲ堤ノ下ヘ荷ヨセ

コレニノリ横ヨリ鉄炮ヲウタセケルユヘニ佐竹衆ク

ツレ城兵鑓ヲアワスル也長門守組此時ノ有功ノ輩ニハ

秀頼ヨリ感書ヲ可賜トノ今福へ八木村長門守堀田圖書後藤又兵衛松浦弥左衛

門大野修理亮湯ノ川孫左衛門平塚左助周幡

志貴野へ八青木民部伊藤丹後守速水甲斐守野々村

伊豫守中村式部真野豊後守渡边内藏助木村主計竹

田永翁出ル也此ニテ打死竹田兵庫子大助谷村土之

助小早川左兵衛奥柵ニライテ木村長門守鎧ヲ合此
場ニテ波多野兵庫青木四郎左衛門高名木井何右衛
門長屋平太夫佐久間藏人牟禮彦三郎也井上與右衛
門智德院ハ奥ノ柵ニテ高名平塚左助大井何右衛門
左右ヲ下知メ引トラス引取口ニ堤ニテ鉄炮手ニテ木
井何右衛門討死
右ノ外秀頼ヨリ褒美ニ與ル者多シ

柵ヲ乘越時後藤又兵衛先ヲイタスヲ平塚左助又兵衛
ワタカミヲ取テ引ノケ長門守ヲ越サセ長門守一番鎧
二番田中大阿弥也 長門守若武者ユヘカ子ヲ後藤カ指圖
ヲタノム是ユヘニ後藤手先ユヘニ可出

トイヘ凡見物イタシ長門守ニ働カセ
輕ク致サレヨト云テ輕クシテ引取 卯辰ノ刻ヨリ戰ハレタル
也為加勢松田理助 足輕大將
五十人 侍十人加テ来ル寄手引取
ノアトユヘ無別条

後藤又兵衛組山中藤太夫等五人心ハセアリ
今日向井將監川口ニライテ大坂ノ番船ヲ乗取小濱民
部少輔光隆千賀孫兵衛尉等大坂ノ盲船ヲ乗取 去十
七日
已後向井等船手
ノ諸將大ニ相支 也將監乗取所ノ船ハ大野修理力兵
船也

廿七日千賀孫兵衛穢多村近所六ヶ取ニ舟橋ヲカケ
蜂須賀九鬼戸川等カ軍勢ノ往来ヲ利ス

伊達政宗兼仰鐘木橋ニ向船場今宮ノ間坤方ニアタリ

浅野長晟後陳ニ備初在介宮
茶臼山

廿八日勅使廣橋大納言西三条大納言參向

廿九日石川忠總主殿攻伯勞洲初船場ノ寄口ハ本多

出雲守忠朝ニ命セラル忠朝無船ノ此処ヘノ働不可叶

一ヲ憤ルコノ旨達上聽御機嫌不好忠朝関原ニライテ
有戦功且勇力超

入故此度兄兼濃守手ヲ分レ別ニ此所ノ寄口ヲ兼也此比石川忠總ハ大久保相模

守忠隣流罪ノ事ニ付テ身上左危シ加納城主松平飛

彈守忠昌大垣ヲ請取ル忠總ハ兼濃勢ノアトニ付可来ノ

旨十月二日ニ告来テ大坂ヘ出勢スレカルユヘニ大坂ニテ

モ石川忠總ハ寄場モ不渡ナリ忠總カ伯父大久保権

右衛門指圖イタレ千波ノ寄口御家人コレヲキラヘハ忠

總是ヲ望ニ可然ソノユヘハ忠總身上破滅ニ迫レシカレ

ハ千波ニテ打死可仕若利ヲ得タラシニハ忠義タルヘシト

云乃権右衛門本多佐渡守正信カ元ニユイテ千波寄口

ヲ乞正信可然ナ也マコトハ大久保七郎右衛門尉忠世

カ孫ホトアルト称羨セシメヤカテ安藤對馬守カ元ニ往

シム安藤乃言上セシメ忠總千波口ヲ兼ルナリ今日忠總

及権右衛門氏ニ兵士ヲ卒メ千波口ニ寄折節塩干テ

ケレハ船モナク歩立テ海ヲ越向ノ洲ニ付芦原ヲカタ

トリ足輕ヲカクル城中ヨリ矢玉ヲ飛ス一甚シ其内ニ
晚日ニ及テ潮ノサシ来レハ矢玉ノアタルニカマワス高野
へ高野へトアカル忠總モ高ニニラシ上ル矢玉シケレハ
家人氏矢表ニ打フサカリ打死手疵ノ輩多シ夜ニ入テ
ケレハ矢玉モ不来トイヘ氏潮ニツカリ軍卒甚苦ソノ内ニ
潮引明方近クテリテ家人坂部与五左衛門神田九兵
衛中黒弥右衛門大河内木工左衛門浅井左五右衛門
古川孫市塩屋源五郎坪井七郎兵衛以上八人城ノ方ニ
至テミレハ城下ニ小堀アリ堀ニ小船ノ捨タルアリ此八
人コノ船ニトリノリテ船ヲ横タヘケレハ乃船城ノ土井ニツ

クハカリテリ此八人土井へ付テ乗上ル其内ニアトヨリテ
イライ来ルトイヘ氏外郭ヲノツトリタル者ハ此八人也
今日福嶋備後守參上秀頼廻文ヲ奉ル又嶋津使者伊
集院半右衛来テ嶋津義弘近日著陳ノ由ヲ言上ス
諸國軍勢ニ兵糧ヲ増賜毎日三十万人ノ扶持米下行
晦日 夜明方石川忠總家人伯勞淵ニノリ入城兵霄ニ
此郭ヲステ、次ノ郭ニウツル屏裏ニ旗指ニ三人縛付
テサシテ忠總家人木久保八郎五郎坂部与五右衛門
神田九兵衛中黒弥右衛門大河内木工左衛門毛利半
助坂边二郎兵衛高岡半兵衛和泉新兵衛築三九郎古

川孫市松倉五左衛門以上十二人拔出テ船場町ヲ攻
トル也 廿九日ノ夜晦日ノ明方ニ八人ノ
モノ伯樂淵ノ外郭ヲ乗取 見廿九日条

蜂須賀阿波守穢多城ヲ乗取ノ後水野日向守勝成永
井右近大夫直勝ヲ見分ノ夕メニ此地ヘツカワサル伯勞
淵ノ際ノ堤ニ井樓ヲ高クアケ内ヨリ寄手ヲウキ立
旨ヲ言上ス廿九日ニ兩人ニ命セラレ仕寄ヲ丈夫ニ付
テ大筒ヲシカケ井樓ヲ可打破ノ仰ニヨツテ兩人此地
ニ向イテ仕寄ライタサシメソノ旨歸テ言上スソノアト
ニ阿波守老臣中村右近議シケルハ御旗本ヨリ兩使
マイラレ今日仕寄モツケラワレリ大方明日ハ早々伯樂

淵ヲ兩使可攻破体テリシカレハ最前穢多城ヲ取テ目
ノ前ノ伯樂淵ヲ御旗本ノ衆ニセメトラレテハ非本意今
夜中ニ伯樂淵ヲセメトルヘシト密ニ定軍議夜中ヨリ兵
船ヲ催メ晦日ノ朝伯樂淵ニラシ入テ攻破ル也森甚本
夫鎗ヲ合セ敵ヲ追崩ス同甚五兵衛樋口内藏助森庄
兵衛同長左衛門廣田加左衛門等戦功アリ中村右近
コレヲ下知メツイニ船場ノ町ヲノツトル也

此時池田左衛門督同宮内少輔イツレモ船場ノ町ヘ船
ヲノリツケテ伯樂淵ノ要害ヲセメヤフル宮内少輔内横
川次太夫六挺立ノ小早船ヲ一文字ニ押切テ要害ノ土

居ニ押入屏ヲノリコミ平子主膳ヲ打取後日賜御感書
横田甚右衛門真田隱岐守安藤次右衛門本多藤四郎
此処ニ来テ點檢之

伯樂淵一番乗石川忠総タルノ由言上其内ニ蜂須賀阿
波守松平左衛門督同宮内少輔淺野長晟等皆一番乗
ノ由ヲ言上ス本多佐渡守此城ニハ一番乗多シト云リ
トソ是ハ一郭ニツ、乗取シユヘ也

伯樂淵ニテ池田力兵士北川久太夫ト云モノ小船ニテ物
見ニ出ケルヲ城中ヨリ見付テ鉄炮ヲ甚シク打立ソノ
内ニ潮子テ船イツキ引取ニ無使ノアリケルニ北川船

中ニテ鉄炮玉ヲ十斗取出シ城ヨリ鉄炮ヲ放ソコトニ
右ノ玉ヲ水ヘテケ入ル城兵コレヲ見付筒先サカルト心
得アゲテ打ケレハ玉船ニ不中也

平子カ頸ヲ箕浦右近御本陳ニ持参イタシ一番首ノ旨
本多上総介ヲ以テ申上ル其時首ノ名ヲモ不知甲モ
トキ首ユヘ實檢ニモ不及白沙ニ捨テ有之干時淺野但
馬守使者菅田四郎右衛門此首ヲ見テ首ヲ石ノ上ヘ
アケ感通ノ体ユヘ箕浦其ソバヘ寄何方ノ御使者ニテ
候ソ此首ノ名ヲ被存候ヤト尋ル菅田是ハ平子主膳
ト云モノ、首ナリ此者マテ六代討死ヲ遂タルモノニテ

冥加ノ武士ニ候ト云箕浦大ニ悦テ重テ本多正純ニ案
内シ先程横川カ討取首ノ名不知候ツルカ平子主膳カ
首ノ由ニ候間御披露奉頼ノ由ヲ云正純乃言上仰ニ
平子ハ其身マテ六代討死ノ者也隱モテキ者ナリト上
意ナリト云々箕浦ハ荒川新ハカ子後ニ玄番ト改ム
今日九鬼長門守小濱民部少輔光隆同久太郎千賀与
八郎野田福嶋新家村ニライテカ戦ス福嶋ノ要害ヲハ
城兵大野道大宮崎備中守守之生捕三人首数七ツコレ
ヲ打取城兵船手ノ奉行明石掃部加藤清政カ唐船作
ノ大河船兵庫ニ乗捨コレアリシヲ大坂ヘノリマワレ軍

船ニカマヘ鳥毛ノ十文字ヲ船印ニイタシ此船ニテ九鬼
カ軍船ヲ防ク九鬼押カケコレヲ追崩ス九鬼カ兵ニテ
ツ立ラレ明石カ兵城中ヘ引入九鬼追ツメ鳥毛ノ船印ヲ奪
取軍船ヲ乗取家臣渡边数馬大ニ疵ヲ蒙達上聞成瀬隼
人正安藤帶刀本多上野介及千波ノ寄衆蜂須賀等此
処ニ来ル新家并上福嶋下福嶋ヲ追立ル一ノ九鬼カ戦
功不少トノ上意ニ付渡边ニ御薬ヲ被下万病回此時木津
ノ角矢倉新橋ノ角矢倉ヨリ石火矢大筒ヲツヨク打出ニ
付テ九鬼盲船ヲイタシ兩所ヘ入カケ大筒ニテ角矢倉ヲ
可打破旨仰アリテ川船ヲ盲船ニコシテハ角矢倉ヲ打

破也

九鬼事三國九等ノ軍船ヲ可采廻旨有上命テ此浦ニイタル御出馬以前ハ紀州熊野浦又ハ勢州ノ海上ニラ

イテ船ノ往來ヲ可改ノ旨有御兩所へ番船ヲ出ノコレヲ改御出馬已後ハ大坂川口へ右ノ船凡ヲラレヨセ新家ヲ采取福嶋ニラタカフ也

或云廿八日松平武藏守同左衛門督野田福嶋丑巳丑

三ヶ所ヲ取左衛門督手ヘヲカタ少兵衛ヲ打捕云々九

鬼カ福嶋ノ働ハ廿九日ノ事ナリト云々

此日夜賊天満ヲ焼拂城中へ引籠松平武藏守同左衛門

督天満ニ陳ス頸生捕アリ

別取豊後守一カ小身ニテ船ヲトリ早夕川ヲコレタルハ

小寺清兵衛浪人分ニテ豊後守所ニ在之カ見切エヘ也中國衆天満ニハ

敵イタリトテ不進ヲ小寺密ニ物見ヲ出シ見切小船ニ

取乘テ向ヘコス夜中ミレハ皆外ヲスラ、内ヘツホムユヘニ

小寺乃別取ニ指圖メ天満ヲ取シム小寺復陳仕藤堂高虎難波橋

ヲ城中ヨリヤイテ引取トキ橋ノ上へ公儀ヨリ鉄ノ楯

ヲ被仰付ツキ立タルヲ左衛門督内川田ト云モノ大

カニテ自由ニ取シ也小崎ト云モノモ楯ヲ取トテ危カ

リシヲ小崎カ下人立フサカリテ引セタル也

此比花房助兵衛年ヨリ行歩不叶蟄居メ有シヲ公被

仰付乘物ニテ召連ラレ備前衆寄場ニ被指置下知セ

シメ玉フ此度千波ヲ城中ヨリ焼テ引取時備前衆コ

レヲ付ヘキニ究リ戸川肥後守モコレニ同心シケルヲ花

房シキリニ諫メケルハ霧ノ紛レ煙ノ下ニ敵必伏ヲ可
置如此處ヲソ、シム一軍ノ大事ナリト云テ留シム如其
言霧晴ケレハ敵多ク隠レ居ケリト云々其後軍散メ肥
後守弟弥左衛門ヲ後藤又兵衛呼ヨセ去ル比千波口
ヲ焼シ時肥後守可付一テルニ不付ハ不審ナリト何レモ
申シタリ備前衆ノ内劫者ノアリケルヤト尋ル弥左衛
門推量メミヨト云ケレハ後藤答ヘケルハ花房助兵衛カ
指圖テルヘシト何レモ云ヘリト云々花房ハ元宇喜多秀
家カ家臣慶長四年有事ヲ彼家ヲ逃レ佐竹カ家ニ預
ラル後源君ヘ仕ヘ奉ル柳原飛彈守カ父也

十二月朔日夜船場センバヲ焼拂テ城中ヘ引取蜂須賀淺野船
場ニ陳取

船場ノ敵橋ヲ焼ントス是ヲ追立々々シテ焼セサルヨシ
小栗又市言上シケレハ其終焼スルモノナリト上意也或云

晦日船場ヲ引取テ其日ヨリ
淺野蜂須賀コ、ニ陳ス

城兵天満船場備前嶋焼拂城ヘ引取トキ天満ノ橋焼落
タル由被聞召軍使ヲ被遣トイヘ凡見届テ不歸ニ付水
野日向守ヲ被遣寄手ツヨク責寄手負等有之段沙汰
ノ限也天満ニ材木多有之コレヲ楯ニイタシ仕寄可仕
旨被仰付テ日向守行向石川主殿助ハ船場ヘ押入テ船

場ノ町ニ陳ス天満ニハ松平左衛門督同武藏守中川
内膳正丹波衆松平周防守有馬玄番頭周部内膳正加藤式部森義作守
彼等ニ右ノ段告之天満ノ橋三箇ニコホレ城中ノ方三
分一ヲ残シソノキワニ焼タル橋ノ材木ヲ積上橋ヲ可焼
落躰ニミヘタル也此段日向守言上前々ノ軍使口々千カイ
御腹立也

城中大野修理亮屋失火

中井太和ヲ召来四日茶臼山御陳替ノ儀ヲ命セラル
船場ノ商家ヲヤフリ可營之ト云々

二日公及將軍家從茶臼山城边ヲ御巡見本多佐渡守

成瀬隼人正安藤帶刀御供

三日本多上野介ヲツカワサレ諸手ノ仕寄場等ヲ巡見
セシム船場ハ廣天満ハ狭シト言上依之松平左衛門督
天満ヨリ船場ニ替テ今橋口ヲカクム

今夕織田有樂ヨリ後藤庄三郎方へ返帖アリ秀頼ヲ
諷諫ストイヘ凡今ニライテ許容テシト云々猶可加諷諫
ノ旨可申遣ト命セラル

明日御陳替ニ付テ御旗ヲ先へ可押出旨ヲ枝土佐守
ニ仰付ラル土佐守退出其跡ニテ太田善太夫云土佐
守ハ何ト心得テ立タルソ先サレカ、リテ可尋テアリ

明日御旗ハ何時ドナタマテ出シ可立ト云は一又御旗
ヲ出サハ先手騷クヘシ先手ヘ其段可被仰遣ト可申事
也トイヘリト也如其諸手サワキ惣責ニ及也

四日將軍家自平野岡山へ御陳替

岡山御陳處冬ハ御座
敷大御番御書院御小

姓組ノ衆番処マテ有之也復ハ御本陳三帖敷
ヲ切クミ持行テ立ルコトクイタセルナリ

今日御陳替ニ付諸手此ワカナラ不存御旗ノス、ミ未
ルヲ見テ大ニ騷惣責ト心得也加賀前田利常寄場真
田出丸へ押寄ス丸出丸ハ大坂辰巳ノ方百間四方ノ
大丸馬出也則真田左衛門佐幸村カ持口也秀頼ヨリ
ノ目付ハ伊木七郎右衛門同半七父子也門ハ西ノ方ニ

アリ東ニウラ門ヲカマヘ東西自由ニ相通ス郭外ハカ
ラホリ三十間ハカリノ夕、キ土居西ノ方ニ少シ水アリ
右カラホリノ内ニ柵ヲ付タル也真田赤旗伊木七郎右
衛門黒地ニ白ハサミノ紋ノ旗也加賀勢奥村攝津守軍
法ヲヤフリ三日ノ夜ヨリカラホリヘ付ユヘイツレモライ
ライ夜ノ内ニカラホリニ至ル真田コレヲ考テ敵大軍也
トミヘタリ夜アケズハ城ヘノル一アルヘカラス鉄炮ヲ打
出スヘカラス夜明向ノ能ニユルヲ相圖ニ可放之トテ矢
サマ一ツニ鉄炮六下ツクハル下知第ニ向ノ方ヲ打キ
ルヘシ堀ノソコノモノ一人モウツヘカラスト云付ソノ内

ニ夜明ケレ氏霧ヲカシ城兵入カヘク鉄炮ヲ放ユヘ筒勢
クツレテ奥村攝津守備不殘引トル相殘モノハ堀ノ内ノ
者マテ也霧次第ニハレテ堀ノ内ヨリ一人二人ツノクモ
ノハ皆ウタル也大勢ツレ立テノクハ不打玉井ニフシテ
付居ルモノ神尾圖書父子組頭成瀬内藏助足輕大將也成瀬吉右衛門子
平岩弥右衛門後仕尾州領二千石大川原助右衛門足輕大將大橋九
兵衛父子足輕大將也神尾圖書ハ金ノ鯨尾ノ曹ヲ著テフ
シテ居ル城兵甚悪口ヲ云アタマヲアケヨト云圖書ア
タマヲアクル所ヲ内ヨリ打テケレハ曹ヲカスリテ不中
ソノ内ニ真田鉄炮ヲトメテ不打セ前田利常ノ旗本ヨリ

ヲリカヘシク引上ヨト使来ル引上ル時何レモフリヨシ
大川原ハ打死大橋父子モ打死也大川原カ子ハ旗本
ニ居タリシカ父打死ヲキイテ掛付父カ指物ヲ取テ
歸ル處ヲ打レテ死以上侍四人打死也卯ノ刻ヨリ已
刻マテノ戦ニ同勢ツカズ引取也雜人戦死甚多シ後
ニ圖書方ヨリ真田方へ通シ真田感書アリ圖書後仕堀田正盛
奥村ハ軍令ヲ背クユヘ改易也利常カ兵富田越後カ
カ、リロハ備場ヨリ矢倉下マテ一町也齋伊豆三本ノ
旗一本北本ノ長柄三本打ヲラル若黨小者凡北三人
手負イツレモ折敷テコタユ此取甚ハケシキニ小畑勘兵

衛景憲齋伊豆平野弥二右衛門葛野圭殿等已上十一
人コタヘ齋伊豆手負タルヲ景憲引カケノク也

越前勢同シク城屏へツク吉田修理亮先手イタシ大ニ
力戦手負死人アリ久シク引カ子タルヲ國枝頼母下知
シテ無子細引トル也持口長曾我部也

井伊直孝城際へ押寄力戦先手ノ大將木俣土佐守足
輕大將小野田小一郎ナト手負引取カ子タルニ付先手
ヲヒカセヨト直孝下知シ使番其外却者凡先手へ行ト
イヘ凡皆先ニトマリテ不歸ニ付テ岡本半介ヲ遣ス
半介軍奉行横地修理ニ如何様ニ致シ引セ可然ト尋

横地云先ヨリ引ントスルユヘニ引レサル間アトヨリ段々ニシ
サリ引可仕ト云ラシユ半介心得右ノ通ニイタシ引取直
孝大ニ説岡本云某ノ仕タルニアララス横地ニ兼テ仕
リタリト云直孝キイテ却者ニタツ子テ致スヲ知者ト
云也是左汝カ功アリト賞義ス

加賀ノ手井伊直孝越前勢如此ニ付テ諸手サワキ惣責
ノ催ニ付テ早々引アケヨト被仰付直孝手へ近藤石見
守ヲ被遣石見守大筒ヲ打カケ其勢ニ可引取ト云其

内ニ安藤帶刀直次ニ往テ引トラセヨト被仰出直次
羽織鹿毛ノ馬出テ段々申渡シ引トラシム直孝脇ヨリ是ヲ見

テ直次トハシラス越前勢ノ内ヨリ却者出テ下知スルト
ミヘタリフリアイ見事也我手へ来ハ悪口シテカヘスヘシ
ト思ノ処へ直次来レル也而ノ諸手無子細引取也

今日城内南表ノ持口石川肥後守越後勢越前勢ヲフ

セクトキ誤テ鉄炮ノ藥箱ニ火入城ノ矢倉一ツ焼落肥後

守疵ヲ蒙ニ付テ松田理介小岩井藏人入替守之十五日宛持守之

或云城兵南条中務少輔カ子ヲ城外へ内通ス然ルニ

城外ノ矢支ライソコタイテ雲生寺カ陳ニ射込城中

ワサトコレヲ不知分ニイタシ南条ヲハ生捕ワキヘサシ遣ス

トキ石川カ手アヤマ千ノ火ヲ南条相圖ノ火カト心得寄

手ヲシヨセタリト云々南条ハ元伯州人也此度寄手ニ通シ持口ノ柱根ヲキリ一度ニラシ

崩ス如ク仕置クトイヘ厄矢夫ヲ射ソコタイコノ謀アラワル

右穿鑿ノ時水堀ノ境ニ足跡アリ鉄炮サマニ堀ノ赤土ツク

五日 今日日本多佐渡守正信ヲ公へ被遣是ハ昨日御軍法

ヲ破リ諸手惣責ノ催シ手負死人多ク將軍家ニ甚憤

リ思召也公御機嫌宜シカルマシキトテノ御使也然ルニ

公仰ニ昨日ノ井伊直孝等カ働將軍家定テ喜悅タルヘ

シ御陳替トアルニ如此手痛キ勝負アツテキライモツク

ト也直孝首尾残ル處益之將軍家ニモ左様ニ思ルヘシト

ノト也佐渡守心得テ將軍家ニモ左様ニ被思召直孝

コノ證拠ユヘ

南条白狀也

ヲ御廢美可被遊トイヘ氏御前ヲカ子サセラレ其儀御延
引ノ由言上也

今日公及將軍家先手ノ仕寄御願見

九鬼長門守ニ命セラレ番船ヲライテ城中ヨリ脱出ノ
モノヲ改メトラヘシム

横田甚右衛門間宮権左衛門ニ命セラレ諸手陳城ヲカ
マヘ土手ヲツキ足輕ヲカクヘシ諸率ヲ矢玉ニアタラシムヘ
カラサルヲ仰付ラル諸手コレユヘニ築山ヲイタシ陳城
ヲカマユ此時藤堂并加賀越前皆ツキ山ヲ構エ各繩張ヲ
イタシ其通ニイタストキ近藤石見守并伊直孝ニ云ケル

ハ築山ノ遠ハ歸陳以後見苦シキモノ也繩張ヨリ二三
十間イタシテ被仕可然トイヘリト也

六日公住吉ヨリ茶臼山へ御陳替

九日 今日ヨリ諸手夜中二三度ツ、関ヲ揚鉄炮ヲワフル
ヘウツヘキ由命セラル今夕亥ノ刻関ヲ揚鉄炮ヲワフル
城中ニモ声ヲ合

十日子ノ刻鉄炮ヲワフルへ関ヲ揚ク

織田有樂并大野修理亮カ使士村田吉藏米村権右衛
門城中ヨリ来ル本多上野介後藤庄三郎於御前此旨
ヲ言上公仰ニ云秀頼國カヘヲ致サル、ニ於テハ今度浪

人ヲ聚メ籠城ノ一ハ御赦免ナサルヘシト云々

十一日間宮権左衛門嶋田清左衛門ニ命セラレ甲州ノ

金堀ヲ呼ニツカワシ藤堂井伊加賀勢ノ陳ヨリ金堀ヲ

可入近國ノ金堀ハ不鍛練タルヘシ武田信玄以来甲州

ニ有之金堀却者タレハコレヲ呼寄ヘシト云々

十二日公及將軍家天滿へ出御寄口御巡見也將軍家御

供ノ者凡鉄炮甚シキユヘ玉落ヲユヒサシ致シケレハ木田

善太夫堅ク制之如此トキユヒサシ、テハ跡玉キヒシキモノ

也トイヘリ

十三日中井太和寺ニ命セラレ堀ノ埋草用意セラレ堀ヲ

可埋ノ由仰付ラル浅野但馬守松平土佐守是ヲ兼

今日茶臼山ト岡山トノ間ニ落首立板ヲ見事ニ削リコシラ

ヘテ二首

大將ハ源氏ノ茶臼山ヒキマワサレヌモノ、フモテシ
大閣ノ跡ヲ修理シテラフモヘ凡落ルハハヤキ女城カト

十四日阿茶局自伏見参向是ハ常高院 京極若狭守室
秀頼母義妹

和睦ヲ取アツカワル、カタメ也

十五日石火矢ヲ稻富喜太夫ニ被仰付大野修理亮臺処

ノ破風ヲ打破ル

十六日ノ夜城兵船場表夜打城中ヨリ船場表へ内々夜

討ニ可出存念ユヘ本町ノ橋ヲ残シ置此處城中持口木

野主馬首組也主馬首手へ秀頼ヨリノ目付林伊兵衛幸田
弥左衛門兩人也唐物橋ノ門槽ヲ堅ム寄手ノ仕寄橋
ヨリ北ハ池田宮内少輔忠雄南ハ蜂須賀至鎮也橋ノ南
ハツレマテ堀キワヘ竹夕ハラ付橋ノ南ハツレヨリ西へ本陳マ
テ柵ヲ付先手ト本陳ノ間ニ大坂地焼ノ時分焼残処ノ
土藏ニ處アリ是ニモ張番ヲ出シ土藏ノ際柵ニシホリ
戸ノ口ヲ二箇処明其口ノ通道ニ堀内道ヲツケテ人ヲト
ラス池田カ陳モ其通也大野主馬首カ子テ夜打ヲ可仕
掛ノ由秀頼へ窺イ置主馬組ノ兵士王宿越前守元北
條家
兵士也後仕越前
忠直初名勘兵衛

ト相談ノ今晚夜打セシム蜂須賀カ仕

寄先ノ兵士寒夜ユへ或ハ土藏ノ内ニ入テ焼火セシメ或ハ
熟眠メ不知夜打入タルニ驚テ出合十餘人打死ス阿波
守カ家老稻田修理亮中村右近一番ニカケ出テ敵ヲ遮
ル中村右近討死修理子九郎兵衛十五
歳城兵ヲ打岩田七右衛
門戦功アリ城兵鎧ヲ合スルモノ四人首ヲ得ルモノ廿三
人也塙段右衛門長岡監物ハ門役ヲツトムル也

城兵上条又八

鉄炮五十挺ヲ預ル七
条与三右衛門ヲ打取

山形三郎右衛門内

海市郎兵衛津田半三郎大素九左衛門石村六太夫松
井次郎左衛門柘植十太夫森嶋清左衛門池田源左衛
門東加兵衛小馬佐太右衛門鈴木半左衛門岡本七左

衛門松田利兵衛成田弥太夫荒川源五平田治部左衛門池田左近右衛門工宮作右衛門都筑茂右衛門梶田兵部中橋勘之丞是等皆戰功ノ輩ナリ廿七日秀頼ヨリ當座ノ引出物ニ竹丁カシノ金ヲ与エ木村喜左衛門一番ニ出テ鑓ヲ合セ疵ヲ蒙リ則外科ヲ付ラル、也ソノ比世上ニ坂團右衛門元関東北条家耳繩城主北条左衛門木夫家人其後仕 筑前中納言秀秋家人其後仕加藤左馬助嘉明夜打ノ大將タリト云沙汰流布スシカレトモ坂團右衛門長周監物ハ門役ヲ云付ラレ秀頼ノ目付林猪兵衛幸田弥左衛門兩人へ主馬方ヨリコトワリテ右兩人ハ橋際ニ始中終有之也團右衛門クミノ兵士ニ

云付今晚ノ夜討坂團右衛門大將タリト書付辻々ニ札ヲ立サセタルユヘニ人皆如此云ヘル也上条又ハハコトワリテ云テ出タル也此外畑角右衛門田屋右馬助後仕紀州號菊之助牧野牛抱三人木村喜左衛門ニ詞ヲカワシコレヲ助タル由ニ付喜左衛門ニ詮議アツテ必定ニキワマリ翌年正月秀頼ヨリ黄金ヲ与エ田村林藏院根表法師稲田修理ト鎗ヲ合セ互ノ鑓ヲ取カヘテ既持スト云ヘリ林藏院鑓修理取ニアツテ家康公上覧ニ具ル後林藏院方ヨリ修理方ハ狀ヲ通シ弥紛レテキニキワマル翌年正月ノ穿鑿ニ工宮与三右衛門一番土藏ノ口ニテ蜂須賀内

長谷川伊豆守後改越家人長谷川小右衛門ト鑓ヲ合

ス後五ニ狀ヲ又吉田七左衛門ト云モノニ番土藏ニテ稻

葉修理亮家人井上九郎右衛門ヲ鑓付其手疵ニテ井

上ツイニ死ス此兩人正月廿一日ノ晚大野主馬方ヨリ引

出物アリ此外ハ手柄ニテラス田村林藏院後仕本多中務
大輔領四百石其後仕松平

下總守清匡
於郡山卒

寄手蜂須賀手御目付佐久間河内守也河内守一々夜

打ノ時寄手ノモノ、詮議アリ中村右近一番ニカケ出刀

ニテ仕合敵ニ鑓付ラレ刀ニテ三刀鑓ヲキル處へ修理

亮カケ合セ右近ヲ鑓付タル敵ヲ二鑓ツイテ右近カ首

ヲトラセス柵ノ内へ引入修理亮息キレ柵ノ内へ入處ヲ

敵トケツキニ突修理亮モ是ヲケツキニ突ク也右近ヲ

鑓付タルハ木村喜左衛門也喜左衛門ヲ鑓付タルハ修

理亮也城兵廿三人ノ高名ノ内梶田兵部長刀ニテ右近

ヲ乘セタリト云又伴彦太夫ト云モノ鑓付鑓ノ口金ニ刀

ノ切込三ツアリトモ云又牧野半抱修理亮ト鑓ヲ合セ

タルト云取々ノ沙汰皆虚説也

此夜山田織部樋口内藏助先手番也此兩人方ハ夜

討不討右近修理方へ討也修理亮ハ疵ヲ蒙リ子九

郎兵衛ハ敵ヲ討也稻田ハ加藤左馬助掣後為
淡州洲本城主指物萩花

阿波守トイ黒鳥毛ノ二階笠金ノ錫杖ノ十文字旗
四半ニ緝地白ニ番指物黒シトイ

十七日小栗又市ヲ蜂須賀カ手ヘツカワサレ昨夜ノ夜
討ヲ御詮議アリ小栗又市場處繪圖ヲ以テ言上則板
倉内膳正ヲ以テ蜂須賀阿波守ヲ御称羨也コトニ父
蓬菴方へ今日公御書ヲ賜リ阿波守船場口ヲ持堅ム
ルニ付テ城兵早々引取タル段感シ思召ノ由本多佐渡

守正信是ヲ傳

此時蓬菴
在江戸

十八日將軍家備前嶋へ出御稻富宮内牧野清兵衛以下
ニ仰付ラレ大筒石火矢ヲ打セ玉フ本丸家宅ノ破風ヲ

打破城中甚念劇ス備前嶋菅沼織部正定芳陳場ニテノ
一也本城へ近ヲ以テ將軍家ヨリ大筒石火矢数百挺ヲ
菅沼カ陳ニサシラカレ城中ノ櫓及家宅ヲ打シメ玉フ
十九日 昨十八日伊達政宗者城中へ忍入テ制札ヲ取来ル
其文ニ片桐東市正同主膳手前ノ者城中ニ入置為謀
叛沙汰アリアヤシキ者於有之ハ可申出也右札ヲ伊達
侍従秀宗今朝岡山へ持參上覽ニ備也

今日城中ヨリ常高院京極若狹守備へ出茶臼山ヨリ阿
茶局本多上野介正純彼處ニ出合和談ノ取扱也凡城
外大筒石火矢甚多秀頼ノ母儀淀殿尤怖畏其上城ノ軍

議不一決城兵或ハ裏切多ク寄手へ内通ノ輩アツテ
謀ナリカタシ南条中務太輔逆心ユヘ刑戮セラル榎嶋玄
番心替ノ沙汰アツテ既ニ打果サル、處北川二郎兵衛
檢使ニ行玄番云分立テ無別條長曾我部宮内太輔盛親
二心ノ取沙汰ニ付持口ヲ改メラル雲生寺手前ニモ難
説多シカレト云コレト云籠城ノ諸士一味セサレハ事難成
ニ付此度ハ先和談セシメ時節ヲ考ラレ可然其内家康
公御年齢御餘命有ヘカラスト城兵衆議一決ニ付テ和談
ヲ乞也公仰ニ天下ノ兵ヲ動カサレ其シルシモナク和睦
ノ條万世ノ嘲ナレハ秀頼出仕被致カ大坂取替カ城ノ

惣堀ヲ埋サスルカ三箇条ノ内同心次第和睦相調ヘラ
ルヘシト也就其城ノ惣堀ヲ埋ラル、ヤウニトアツテ無
事相濟也

廿日常高院茶臼山へ參上則和睦相調大野修理亮子
信濃守織田有樂子武藏守人質トメ来ル本多上野介
是ヲ預ル

廿一日安藤帶刀成瀬隼人正永井右近大夫ニ命セラ
レ諸手ノ仕寄ヲ引取セ玉フ堀ヲ埋ル奉行松平下総
守本多義濃守同豊後守瀧川豊前守佐久間河内守山
城宮内少輔山本新五左衛門各四門ヲ堅メ甲乙人ニ夕

リニ城中へ乱入セシムヘカラスト也

今日九州勢室津矢庫ニ至ル本多上野介コレヲ兼ル凡
ソ嶋津兵船七百餘艘其外ノ兵船三千余艘云々大坂
和談ニ付各歸國スヘキ旨被仰付

大坂乱逆ノ以前大野修理亮方ヨリ嶋津義弘元へ秀
頼頼三玉フノ由書ヲ通シ名刀黄金ヲ贈ル義弘返簡
ヲ送り不肯贈物ヲ返進ス義弘関箇原ノ時逆徒ニ與
スルノ処御免ヲ被加殊ニ本國毎相違被仰出タル一公
深重ノ厚恩ヲ不忘ノ由申遣ス

廿二日惣構屏矢倉ヲコボク惣堀ヲ埋ル

同日御誓書御筆モトノ檢使木村長門守郡主馬首茶臼
山ニ至ル木村長門守御血判不分明ノ由言上公大ニ
感セラル秀頼判形ノ改ハ板倉内膳正重昌也秀頼ヨリ
宛取ヲ尋子ラル板倉此事ヲ不伺兼トイヘトモ家康公
ノ宛取タルヘシト云事濟テ歸ル公宛所ノ事ヲ不被仰
付無心元ト思召ルノ取板倉右ノ通言上御感也

今日本多上野介奉書ヲ以テ淺野長晟家臣淺野右近
カ家人戸田六左衛門新宮ノ一揆誅戮ノ功ヲ賞ス是
ハ長晟大坂出陣ノ跡ヲ窺ヒ和州吉野十津川紀州熊
野新宮ノ邊ノアフレモノ厄大坂ノ計策ニ從ヒ一揆ヲ

企テ五味ヲ大將分ト定メ数千ノ人数ヲ集メ取々ヲ乱
妨ス五味ツ子ニ猿皮ノ頭巾ヲ著スユヘニ人皆猿ノ皮ト号ス其比新宮ニハ長晟家
臣淺野右近在城右近ハ長晟ニ從テ大坂ニ在陳ユヘニ
右近カ家人戸田六左衛門後於廣嶋判髮號道賀ニ兵士二十騎
差副留守居ニ指置是ニ由テ戸田新宮ノ社人ヲ相カ
タライ十二月十二日城ノ西北ヲトテシ川ヲ要害ニカ
タトリ船共ヲ残ラス城下ノ川岸ニ引着置ク一揆鉄
炮ヲ打立川下ノ筏共ニ取乗渡ラント支度スル所ヲ
城ノ侍不殘引ヨセタル船ニ取乗上ヲトロ口中船田口
下成川口三箇所ヨリ押渡追拂ヒ首数多討取ル此旨

大坂へ註進則長晟言上是ニヨツテ本多上野介右近ニ
奉書ヲ遣シ御感ノ旨ヲ蒙ラシム戸田ニモ長晟直書ヲ
遣ス而メ一揆氏在々へ逃散ルトイヘ氏戸田小勢ユヘ
ツ、イテ退治スルニ不及其後新宮ヨリ九里北カウノ
ウヘト云所ノ寺へ雜兵四五百計鉄炮数多ニテ楯籠ル
由重テ大坂へ註進カウノ寺ハ大野川ノ北也是ニヨ
ツテ長晟大坂ヨリ熊澤兵庫ト云士大將ニ其組ノ士
共差シ添テ北山へ遣ス兵庫先ツ和歌山へ立寄永由紀州地侍
少政所同五郎七ニ各鉄炮二十挺宛預ケ北山一揆退
治スヘキ由申ツク少政所五郎七早速打立ヲロシ村

ニ一宿シ大野川へ翌日辰ノ刻到着シテ船渡リニ相
待熊澤兵庫ハ本宮ヲ打越本宮ハ湯川五兵衛
代官乃湯川支配也湯川五
兵衛ヲ案内者ニテユルカヨリ押寄ル右近家人有馬
喜藤次ニ新宮留守居ノ士共ヲ差添テ本口ヨリ
押寄ル永田少政所同五郎七辰ノ刻ヨリ巳ノ刻マテ
大野川ノ渡リニ相待トイヘ凡熊澤兵庫有馬喜藤次
未到着一揆共向ノ川端ニ出張リ石ヲ聚メ旗ヲ立テ
鉄炮足輕ヲフセ置此渡リハ常ニ水深シテ人馬ノカ
千渡リナシ舟ヲ以テ往来スル淵也五郎七云ケルハ
今迄相待トイヘ凡何レモ未到着此上ハ延引如何アル

ヘキトテ川上へ少上リ少政所五郎七一同ニ川ヲ渡シ押
寄ル所ニ一揆鉄炮ニテ少ハ相支ヘケレ凡急責付タレハ
一揆タマラス引退ク此時ニ首三ツ討取少政取五郎七
川上ヲ渡ルユヘニ申酉ノ方ヨリ戌亥へ向テ責寄ル一揆
敗北シテ猿ノ皮少シ跡ヨリ丑寅ノ方へ引退ク取ニ永田
五郎七カ甥永田権八走り懸リ猿ノ皮カ右ノ肩先ヲ
鑓ニテ突トイヘ凡猿ノ皮カヘリミス立退ク此時ニ當リ
テ兵庫カ勢辰巳ヨリ川下ヲ渡シ猿ノ皮引退ク横合
ヨリ押寄ル権八追懸ケ猿ノ皮ニ頬ニ辭ヲカケ、レハ
猿ノ皮引返シ横合ニ懸ル兵庫ヲ見付一文字ニ兵庫

カ甲ヲニカシコロノハツレヲ一刀打ツ兵庫猿ノ皮ト引
組テカケノ下ヘ二人共ニ落榎ハモ共ニ飛テ落ツイニ
猿ノ皮カ首ヲ榎ハ討取然ル所ニ兵庫カ下人走り来
リ申ケルハ兵庫カ組卧セタル敵ナレハ脇ヨリ首ヲ取
ル凡此方ヘ申請ヘキ由再三云トイヘ凡榎ハ最前鎧付
タル敵ニテシカモ首ヲ取タレハ不肯兵庫カ組ヲ始ト
シテ兵共多ク其場ニアリト云ヘ凡榎ハカ働是非ヲ云
ニ及ハス然取ニ新宮ノ住人ニ田上下兵衛ト云モノ進
ミ出テ榎ハニ云ケルハ其方ハタラキ何レモ見認タリ
トイヘ凡是非コトハル上ハ彼カ下人共ニツカワセトアツカ

フ榎八日來下兵衛ト心友ナルユヘカレカ云ニマカセ汝ニ
首ヲ遣トテ兵庫カ下人ニ十ケツク此後一揆ノ餘黨取
取ノ山々ヘ逃隠レ忍フ取ニ永田五郎七湯川五兵衛山
ヲサカシ追出シ捕テ誅戮ス

湯川五兵衛ハ元紀州ノ湯川也増田右衛門尉ニ屬
シテ岩城ニテ働アリ其後長晟ニ從テ新宮邊ノ郡
吏タリ永田少政所ハ元新宮ノ城主堀内阿波守家
臣勢州ニテ働アリ後ニ長晟家人タリ永田五郎七モ
勢州ニテ戦功アツテ長晟ニ郡吏トシ湯川ト同役タリ
少政所五郎七此度ノ働ニ依テ長晟以直書感之

災燒 後五郎七名ヲ與_レ龍衛門ト改_テ困幡守長治家

臣ニ附_レ為組頭八十七歳ニシテ病死ス權八工ヘアツ

テ浪人近比紀州長嶋ニテ病死ス

今度紀州新宮表ヘ一揆罷出候處貴殿御内戸由六九

衛門尉走合一揆之者凡悉追散首數多討捕無比類

働之由註進被申上候其段具達 上聞候處一段

御感被思召候此旨六九衛門方ヘ可被申遣候恐々

謹言

本多上野介

十二月廿二日

浅野右近殿

同冬十二日其地一揆共多勢ニテ新宮ヘ取懸刻其

方以覚悟早速追拂殊首共數多討捕候儀手柄ニ候

則兩御所様ヘ申上候處ニ御感不斜候未在々ニ殘

黨共有之由ニ候右近太夫差越候間其方弥可入精

事肝要ニ候恐々謹言

但馬守

正月二日

戸田六左衛門殿

廿三日木村長門守秀頼ヨリ使者トメ岡山ニ至ル

今日ヨリ惣堀ヲ埋初ル惣構ハ御先手衆二ノ九ハ城
内ノ衆コレヲ勤ム公ヨリ秀頼機遣トキ輩ヲトアツテ
京極宰相同丹後守福嶋備後守小出太和守同信濃守
二ノ郭へ入テ土井ヲ引堀ヲ埋平ニスル也

今夜茶臼山二ノ構ニ火事出来五六間焼失岡山ヨリ
火事見舞ノ使トノ板倉周防守茶臼山ニ至ノ処御陳所
テルホト静ニ別糸無之躰ユヘ周防守不申上レテ歸ル
將軍家御感

廿四日織田有樂大野修理亮秀頼ノ使節トメ茶臼山
へ来ル時服各三ヲ献上拜礼藤堂高虎本多正信会釈

ソレヨリ兩使岡山へ至ル

今日諸大名茶臼山へ參上大坂和談ノ儀ヲ賀シ奉ル

今日公蜂須賀阿波守至鎮カ家臣ニ御感書ヲ賜ル稻

田修理亮同九郎兵衛岩田七左衛門右三人大坂千山田

織部樋口内藏助森甚五兵衛大坂織多森甚太夫大坂

淵鑓表之戰功以上七人其上ニ稻田父子ニハ御腰物ヲ被下也

修理亮ハ長光ノ御太刀九稻田宗心ニ黄金十枚呉服二

林道感右同御褒美也

松平宮内少輔内横川次太夫箕浦右近御感書ヲ賜フ

今日將軍家南泉堀ノ奉行ヲ長谷川左兵衛藤廣ニ被

仰付

廿五日公茶臼山ヨリ伏見へ兵ヲ入サセ玉フ是ヨリ則入
洛二条ノ御城ニ入御也茶臼山ニハ本多上野介正純安
藤帶刀直次成瀬隼人正正成在陳ス

今日織田有樂大野修理亮并七組ノ頭岡山へ出仕

廿七日岡山ヨリ土井大炊助上洛仕リ大坂城破却ノ旨

言上公仰ニ諸大名三年普請役御赦免可被成トノ事也

今日板倉伊賀守ニ命セラレ明日參内ノ儀ヲ仰出サ
ル且天酌御赦免ノ儀仰ラル

廿八日公參内白銀千枚綿三百把ヲ献上仙洞女院女

御各献物アリ

今日与州宇和郡

十一万石雷田
信濃寺旧領

ヲ伊達政宗力ニ男遠江

寺秀宗ニ賜フ

廿九日夜岡山御陳処ノ前御小姓衆ノ小屋火事

御前

其五日公於野山... 休見入野... 天皇... 御前

御三... 御所... 御山... 野山... 御前

御所... 御所... 御所... 御所... 御前

御所... 御所... 御所... 御所... 御前

御所... 御所... 御所... 御所... 御前

御所... 御所... 御所... 御所... 御前

御所... 御所... 御所... 御所... 御前

御所... 御所... 御所... 御所... 御前

御所... 御所... 御所... 御所... 御前

27X
21
49

